



導入事例集



最先端を、人間らしく。

事例一覧

製造業	P.3
小売・卸業	P.17
不動産業	P.21
建設業	P.23
運輸・物流業	P.25
医療・福祉業	P.27
旅行業	P.31
印刷業	P.33
アミューズメント業	P.35
アウトソーシング業	P.37
その他	P.39

RPA導入でECサイトの在庫状況の更新や電子帳簿保存法対応など業務の自動化により、サービスの質向上、外注費削減を実現

ホテル・レストラン用食器、デパート・専門店向けテーブルウェア、輸出向けディナーセットなどの陶磁器製造・販売を行っている光洋陶器株式会社（以下同社）。同社では、属人化による業務が非効率であったり、各システムの連携に多くの手間を要していたり、社内リソースが不足しており外注しなければならない業務があり、年1回ではあるものの数十万円のコストがかかってしまうなど課題を抱えていました。そこで、RPAの導入を進め、ルーティンワークの自動化や電子帳簿保存法対応を実施。効率化を果たすことでルーティンワークからの開放、お客様対応に集中できる環境の実現によるサービス品質の向上、定型業務における外注費削減などに成功しました。

BEFORE

- 業務の属人化が進み、担当者がいないと業務が滞ってしまっていた
- 決まった時間に行う業務では、他の業務を中断して行う必要があった
- システム連携一括処理などを手作業で行っていたため、多くの手間がかかっていた
- 年1回数十万円の外注コストがかかっていた
- お客様の電話対応中も、時間になれば行わなければならない作業があり、集中できなかった

AFTER

- 外注していた定型業務の自動化により、対象業務の外注費をゼロに削減した
- ECサイトの在庫状況の更新作業をRPAが業務時間外に行ってくれるため、ほぼリアルタイムで更新が可能になった
- 2,000行の処理に21時間ほどかかっていたが人から手離れし、ゼロになった
- もうすぐ義務化が始まる電子帳簿保存法への対応業務を自動化できた

業務の属人化や外部委託コスト、作業中断による精神的負担...



業務の属人化による業務の停滞



人による手作業が多く手間がかかる



膨大な単純処理を外注し1回数十万円のコスト...



他の対応が入り、業務が多々中断される

単調な作業をRPAで自動化し、コスト削減・リソース不足を解消できないか？

RPA導入でお客様対応の質向上、外注コストの削減



在庫状況の更新

常に正しい在庫状況をほぼリアルタイムで更新が可能に



商品品番の変更

2,000行の処理が自動化され、外注コスト削減



電子帳簿保存法の対応業務

従業員負担を増やさずに対応可能に



販売管理システムでの印刷作業

タイムラグをなくし、お客様への連絡遅延リスク低減を実現



その他、商品売上管理ファイルの作成やGoogleアナリティクスのデータ抽出の自動化も

RoboTANGO と他社 RPA2 台を業務時間帯によって使い分け

- ✓ 70 個のロボをフル活用
- ✓ 時間による縛りがなくなり業務を中断することが大幅に減少
- ✓ お客様対応におけるサービスの質向上につながった
- ✓ 作業工数月間 **40** 時間以上削減



光洋陶器株式会社

【設立】1964年12月22日
 【所在地】岐阜県土岐市泉町久尻1497-3
 【代表】代表取締役社長 加藤一治
 【WEB】<https://www.koyotoki.co.jp/>

課題

属人化業務や手作業が多く
お客様対応に弊害が生じていたリソースの問題からシステム処理を外注しており
年1回数十万円のコストが発生していた

光洋陶器株式会社（以下同社）は、ホテル・レストランの業務用食器を中心に12,000点を製造販売する食器メーカーである。

同社では、システムの仕様上、一括処理ができない業務があり、単純作業ではあるものの約2,000行ほどの処理をしなければならぬ業務があった。リソースの関係から社内での作業が難しく外注に頼らざるをえず、毎回数十万円のコストがかかっていた。

また、各業務の属人化も課題の一つだった。担当者が不在の際には業務が滞ってしまったり、システム間を連携する作業も多いが、ほとんどが手作業であったため、手間がかかりほかの業務時間を圧迫していた。

さらに、決まった時間に行う必要がある業務によって、お客様対応中に処理しなければならなかったり、業務を中断する必要があったり、一つの業務にできない課題があった。

「商品カタログ切り替えのタイミングで商品情報の削除をするのですが、システムの仕様上、数万行を1行ずつ手作業で削除していました。

また、毎日決まった時間にデータの抽出を行う作業があつて、ほかの作業を中断しなければならなかったり、電話対応中に抽出したりと一つの業務に集中できない状況を何とか解決したいと考えていました」（丹羽氏）

効果

RPA導入で属人化防止やお客様対応のサービスの質向上を実現
今まで外注していた業務をRPAが代行し、コストがゼロになった

RPA導入後はロボが自動で業務を行ってくれるので、お客様から電話での問い合わせ対応にも集中して行えるようになり、サービスの質向上も実現した。また、従来属人化していた業務もRPAの活用により、誰でも対応が可能になったことで業務が滞ってしまうリスクも激減。さらにこれまで外注していたルーティンワークもRPAで対応できるようになり、外注コストもかからなくなった。

(1) 在庫状況の更新

販売管理システムでは自動で売上処理ができず、在庫数も変動しない。そのため、業務時間外にECサイトで注文があった際は、次の営業日に人の手で更新しておりタイムラグが生まれていた。在庫切れの商品の注文を受けた際は、お客様にご連絡しなければならなかった。

RPAで自動化したことで常に正しい在庫状況の更新をほぼリアルタイムでできるようになった。お客様にご迷惑をおかけするリスクが減り、在庫切れの連絡をする手間がなくなることで担当者の負担軽減も実現した。RPA導入による最大の成果である。

(2) 商品品番の変更

業務時間外に行う必要がある販売管理システムの品番の変更業務。廃版商品を不要の品番として、毎回2,000行ほどの処理をする必要があった。手作業で行うと21時間（3営業日）かかっていた。

RPAの導入によって1日で完了するうえ、自動化されたため、休みの日に作業を行う必要もなくなった。

(3) 売上管理ファイルの作成

販売管理システムから在庫・売上数量をExcelでエクスポートし、営業生産管理部用に在庫や売上、基準在庫、売上によるABCランクなどの更新を、RPAを使い毎朝処理している。

また、一つのExcelに複数のCSVを貼り付ける作業も自動化することで手作業の手間が削減された。

経緯

録画機能や複数人でロボを
作成できることが決め手にフローティングライセンスによりRPA作成者の
育成ができることが導入の決め手

同社では、さまざまな課題解決を目的にRPA導入による業務効率化を検討。7~8社の情報収集、比較検討を行った。トライアルを行ったり、実際に導入したのもあったが、コスト面やロボ作成のハードルが高かったこと、安定性などの理由から別のRPAに切り替えることにした。最終的には次の観点から「RoboTANGO」の導入を決定した。

- ・低コスト
- ・録画機能
- ・シンプルな操作
- ・RPAを作成するまでの過程が他のRPAより早くスムーズ
- ・チャットワークと連携している
- ・フローティングライセンスにより複数人でロボを作成できる

「RoboTANGOに決めた最大の理由は、フローティングライセンスにより、複数人でロボが作成できる点です。社内でRPAを普及させていくには、ロボを作成できる人材を増やす必要があるため、このライセンスが導入の大きな決め手となりました」（丹羽氏）

「プログラミングの知識がほとんどなくても扱っているうちに少しずつ使えるようになりました」（下村氏）

(4) 電子帳簿保存法の対応業務

電子帳簿保存法に対応するため、FAXで受けた注文書をPDF化した後の処理で、指定のファイル名への変更とタイムスタンプ付与作業にもRPAを活用している。

ファイル名はもともと年月日時間で作成されるので、「得意先コード」と「得意先名」を追加する作業を行った後、タイムスタンプ付与システムで処理するという流れを自動化した。

(5) 商品受注後に販売管理システムでの印刷作業

在庫切れの商品を受注した場合、お客様に入荷時期を連絡する必要があるため、少しでも早く生産手配の紙のリストを生産管理部に提出する必要があった。このリストは10時、12時、15時と決まった時間に出るため、その都度対応している業務を中断していた。手作業ではタイムラグも生まれやすくお客様への連絡も遅れがちだった。

RPAで販売管理システムから在庫データの抽出、生産管理システムにて生産手配書の作成・印刷を自動化。2つのシステムを連携したことにより、タイムラグなくお客様への連絡遅延リスク低減も実現した。

(6) Googleアナリティクス (GA4) のデータ抽出

ECサイトのアクセス解析データを抽出・CSV化して経営者側と管理者側、営業用の資料として営業担当にも送る業務を自動化した。



ご担当者様からのメッセージ



できるだけ業務を効率化したいのであれば、RPAの活用についていろいろと学び、試行錯誤を続けて欲しいと思います。作成の楽しさに気づけたら、RPAに興味が変わると思いますので、興味がある方はまず一度使ってみることをおすすめします。（下村氏）

業務の属人化や重複作業の削減を目的にRPAを導入 接点の少ない社員との交流や社員の意識レベル向上を実現

主に陸用や船舶の小形ディーゼルエンジンの部品やGHP空調といったエンジン部品の製造を行っている株式会社三モト（以下同社）。同社では、ベテラン社員による業務の属人化、毎日発生する単純業務の効率化に課題を抱えていた。特に単純業務では、同じ作業を複数で行う無駄も多く早急な解決が求められていたため、RPAの導入を決定。運用を進めていくうえで、これまで接点の少なかった社員との交流や社員の意識レベル向上を実現した。今後はロボットによる効率化からさらに生産性向上も視野に運用を進めている。

BEFORE

- ベテラン社員の業務属人化が進んでいた
- 毎日発生する単純作業が多いうえ、その作業を重複して行ってしまう業務の無駄が生まれていた

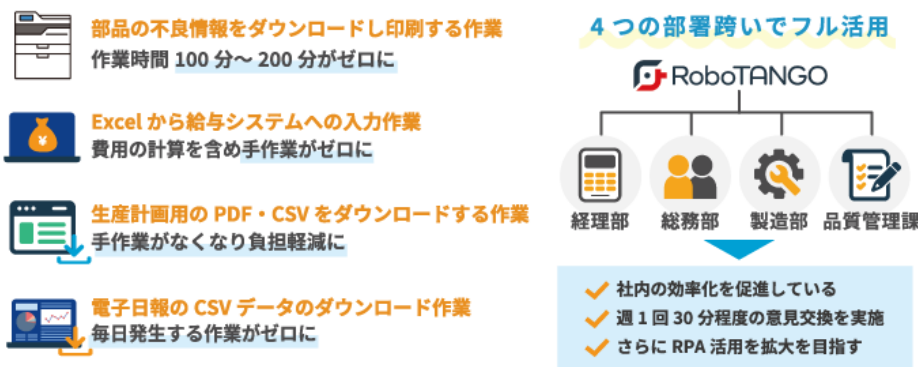
AFTER

- ロボット制作を進めるなかで、属人化が進んでいた業務のマニュアル化も実現した
- 単純業務の自動化、重複作業の削減が実現した
- RPA運用を推進していくなかで、他部署との新たな交流が生まれ、社員の意識レベルも向上した

業務の属人化や 無駄な業務の多さが課題に...



RPAの導入で最大1,800分/月の作業時間削減！



株式会社三モト

【設立】1947年10月
 【所在地】石川県白山市旭丘1丁目13番地
 【代表】代表取締役社長 河原 良篤
 【WEB】<https://www.mimoto.co.jp/>

課題

業務の属人化や無駄な業務の多さが課題となっていた

特定の社員しかできない業務が多いうえ、複数人が同じ業務をしているケースが多かった

株式会社三モト（以下同社）は、主に陸用や船舶の小形ディーゼルエンジンの部品やGHP空調といったエンジン部品の製造を行っている。

同社では、ベテランの社員が多く、世代交代が上手く進んでいなかった。その結果、特定の社員しかできない業務も多く、業務の属人化が大きな課題となっていた。

また、自分以外の人は何をしているのかわからず、同じ作業を複数人で行ってしまうといった業務の無駄も多く見られた。これにより、業務の非効率化が生まれ、ひいては生産性の低下にもつながってしまっていた。

「複数人の社員が同じデータを取得して、それぞれが同じ作業をしているケースが少なくありませんでした。それぞれが何の仕事をしているのかわかっていなかったというのが大きかったと思います」（酒井氏）

経緯

2社のツールでトライアルを行い、RoboTANGOを選択

操作性とサポートの良さ、価格の安さからRoboTANGOを導入

同社では、属人化防止や業務の被り解消などを模索している過程で、経営陣からRPAの導入を勧められ、調べていくなかで、複数社のなかから、2社に絞ってトライアルを行った。

最初にトライアルを行ったツールは自社の基幹システムと相性がよくなかったことや、価格面で折り合いがつかなかった。その後、トライアルを行ったRoboTANGOは、最初のツールに比べて操作性が良かった点、同じ機能でも大幅に価格が安かった点、そしてサポート担当が親身になって相談に乗ってくれた点などから、トライアル開始1ヵ月で導入を決定した。

「価格面もちろん見ましたが、それ以上に操作性が良かったのが決定した一番の理由です。そして、サポート担当者の対応が良かったのも理由となっています。ツールとはいえ、最終的には人の対応が重要なので、それが良かったのが大きかったですね」（池田氏）

効果

部署間の交流や社員の意識レベル向上を実現

基幹システムからのデータ取得の自動化に加え、部署間の交流、社員の意識レベル向上が実現

RoboTANGO導入後、主に基幹システムからの生産管理データや不良データの取得、電子日報のデータ取得、勤怠管理など毎日発生する単純作業のロボットを多数制作し、これまで手作業で行ってきた業務の効率化（最大で1日1時間半程度）を果たした。

また、RPAを推進していく過程で、これまで接点の少なかった社員同士の交流や社員の意識レベルの向上が実現。社内全体のデジタル化やDX化に向けた足掛かりとして期待が高まっている。

「RPAを導入する以前は、全く部門が違えば話すこともないような人たちが、自分たちのお互いの業務について語ったり、歩み寄りする機会はありませんでした。現在では、ロボを制作できる人材も9名まで増加し、交流はさらに活発になっています」（三浦氏）

「導入初期はRPAに慣れるまで時間を要するため、担当者の想いや熱が足りないとなかなか社内でも広がっていきません。しかし、自社の課題解決を実現させたい、少しでも社内の雰囲気を変えたいといった強い想いを持って推進していくことで、それが徐々に周囲に伝わり、社員の意識レベル向上につながっています」（池田氏）

展望

今後はデータ分析にもRPAを活用し、生産性向上を目指す

現状のデータ取得自動化から今後は取得したデータの分析による生産性向上を実現させたい

現状、基幹システムや電子日報からのデータ取得が主になっているが、今後は取得したデータを業務改善に活かすのが大きな目標となっている。

RPAの基礎知識や活用方法、次に制作するロボットについてなどの意見交換を行う場を活用し、社内での活用を増やしつつ、業務効率化から生産性向上につなげるためのロボット活用を進めていきたいと検討を重ねている。

「現在は生産管理システムや電子日報からのデータ取得など、業務の効率化を進めるための自動化が主になっています。

ただ、データ取得で終わっていて、取得したデータの活用はまだに至っていないため、今後は取得したデータを分析して生産性向上につながる部分についてもRoboTANGOを使っていきたいと思っています」（酒井氏）

ご担当者様からのメッセージ

導入初期はRPAに慣れるまで少し時間を要するため担当者の想いや熱量がないと、社内で促進させることは難しいです。ですが、自社の課題解決を実現させたい、少しでも社内の雰囲気を変えたいといった強い想いを持って推進することで、それが徐々に周囲にも伝わり、社員の意識レベル向上につながっています。（池田氏）

電子帳簿保存法改正で増えた大量のPDFファイル処理効率化を目指しRPAを導入、効率化とミス削減を実現

福井県で下着の製造販売や医療用製品の製造を行っているイーゲート株式会社（以下同社）。同社では電子帳簿保存法改正で大量に増えたPDFベースの発注書の処理に課題を抱えていました。また、基幹システムに入力する定型的な作業も多く、手作業によるヒューマンエラーの改善も喫緊の課題となっていました。そこでRPAを導入し、手作業の自動化を推進し、業務効率化やヒューマンエラーの削減による正確性の向上を実現しています。

BEFORE

- 電子帳簿保存法改正にあたり、取引先から大量に送られてくる発注書（PDFファイル）の処理に時間を取られていた
- 基幹システムへの入力の多くが手作業で効率化や正確性の向上が必須であった

AFTER

- RPAでの自動化により手作業では1~2営業日ほど増えてしまうはずだった作業・工数がなくなった
- 基幹システムへの入力作業で3つのロボットを動かして自動化を成功させた

改正電子帳簿保存法の対応により 経理部門の作業が煩雑になる恐れ...



RPA導入2か月で月間24時間の作業工数削減に成功！

こんな業務を自動化

★電子帳簿保存法の対応 - 発注書の処理



多い月で100~150件の発注書を処理する必要がある手作業で行う場合、1~2営業日ほど増えてしまう

★生産管理システムでの月末処理



すべて手作業で丸1日（約8時間）かかっていた...



RPA導入により、経理部門へ影響を及ぼさずに済んだ。

月間**16時間**の
作業工数削減に！



RPAにより手作業がゼロに！

月間**8時間**の
作業工数削減に！
また、作業時間が
1時間に短縮！



イーゲート株式会社

- 【設立】平成7年3月
- 【所在地】福井市川合鷺塚町40-10
- 【代表】代表取締役 野坂 鐵郎
- 【WEB】<https://www.e-gate.global/>

課題

大量のPDFファイル処理の
効率化が課題であった電子帳簿保存法改正に伴う大量の発注書処理や
基幹システム入力の自動化が喫緊の課題だった

イーゲート株式会社（以下同社）は繊維・アパレル業を営んでおり、メインは女性の下着製造・販売。販売に関してはBtoB以外に自社ECや楽天・AmazonなどでtoC向けも行っている。

また男性用下着や医療用（ガーゼ）製造も行っており、ガーゼの生地は女性用下着類の製造にも使用している。元々のメインは有名下着メーカーのOEMで、これは現在でも継続して行っている。

同社では、電子帳簿保存法の改正に伴いOEMの取引先から多い時は月に100～150件ほどの発注書（PDF）が送られてくるようになり、その処理や管理が煩雑化していた。また、基幹システムへの入力作業も手作業のため、正確性にも問題があるということから業務の効率化と正確性の向上は喫緊の課題であった。

「電子帳簿保存法改正前は送られてきたPDFをそのまま保存しておけばよかったのですが、改正に対応するための管理や情報の付加などの処理をすべて手作業で行うのはかなりの負担となります。

また、元々基幹システムを生産管理システムとして活用していましたが、ExcelやPDFとかのシートを見ながらその内容を手で打ち込む業務がそれなりにあったため、省力化や正確性の担保にも課題を感じていました。」（森下氏）

効果

RoboTANGO導入で効率化と正確性の向上を実現
RPA導入後2か月で24時間/月の作業工数を削減した

同社で自動化を進めた主な業務としては、主に電子帳簿保存法に対応した発注書の処理と、生産管理システムへの登録作業を自動化している。

（1）発注書の処理業務

取引先から送られてくる発注書のPDFファイルを電子帳簿保存法に対応する形で情報を登録してファイルを保存する作業。多いときで100～150件/月発生しており手作業で行った場合、経理部門が1～2営業日ほど業務時間が増えてしまう。

< RPA導入後 >

すべてを自動化したことで作業工数は一切発生せず、経理部門への影響はなかった。

（2）生産管理システムでの月末処理

毎月末に生産管理システムで処理をする業務に対して3つの業務を行っている。

1. 投入作業

下着や医療用のガーゼを製造する際に使用する生地を生産管理システムに登録し、生産に進むフローのなかで「在庫を生産用にあわせる」作業。

2. ロット完了作業

今月生産が完了したものを生産管理システムで処理していく作業です。月に100件以上発生し、数十種類の生産物があるため、種類別の処理が発生していた。

3. シリーズ・シーズン完了作業

シリーズ・シーズンごとに販売終了した際、基幹システムの情報を更新していく作業。シリーズ・シーズンごとの製品は限定なので、生産の際に生地が余ってしまうと廃棄処分する必要がある。

経緯

低コストかつ1ライセンスで
複数台使用可能が決め手に2社で検討し、低コストであること、1ライセンス
で複数台使用が可能な点から導入を決定

以前、基幹システムの省力化を目的として別会社のRPAをトライアルしていたが、社内でRPAの利点が浸透していなかったため、その時は導入を断念していた。

その後も導入の機会を見計らっていたものの、RPAが必要なほど業務が切迫しておらず導入には至らなかった。しかし、電子帳簿保存法の改正により発注書の処理をすべて手作業で行うのは困難だと経理担当者とも話をしたうえで、改めて本格的にRPAの導入検討を実施。

以前トライアルしたRPAとRoboTANGOを比較し、低コストでの導入が可能な点、1ライセンスで複数台使用できる点からRoboTANGOの導入を決めた。

「低コストで導入が可能な点と1ライセンスで複数台のPCで使用できる点が大きかったのですが、実際に営業担当の方に発注書の処理の効率化が可能かどうかを確認し、OKが出たことが最終的な決め手となりました。」（森下氏）

< RPA導入後 >

これら3つの作業は今まで人手で行っており、丸1日（約8時間）かかっていた。しかし自動化によって人の手作業はゼロになったうえ、RPAロボットの作業時間は1時間で完了できている。また、時間的な効率化だけでなく、ミスの削減による正確性の向上を実現した。

「発注書の処理作業に関しては、これまで手作業で行っていた時に比べ、経理部門で1～2営業日は増えてしまうはずだった作業・工数がなくなりました。

また、基幹システムの入力については3つのロボットとVBAの活用によって自動化を成功させました。これによって元々は丸1日（8時間）かかっていた作業が1時間で完了するようになり、時間的な効率化と人の手による入力漏れがなくなり正確性向上を実現しました」（森下氏）



ご担当者様からのメッセージ



RPAに限らず、困った時にどういった解決策があるのか幅広く興味を持ち、好奇心を持ち取り組まれるのがいいのかなと思います。その中でも個人的に、RPAはすごく有益な解決策の1つになるものだと感じています。（森下氏）

ロボ作成により業務の見える化、効率化を推進 年間4,000万円の経費削減をRoboTANGOとともに

車の足回りの部品であるボールジョイントという部品を製造している開発型メーカーである株式会社ソミック石川（以下同社）では、生産管理部での長時間残業が常態化しており、会社からも問題提起されていた。同社は、定常業務を削減するためにRPAの導入を検討、フローティングライセンスが決め手となり導入を決めた。導入後は、生産計画室でRPAで自動化させる対象業務を一覧化し、毎日、毎週、毎月発生する膨大な量の定常業務をロボに任せ、残業時間の大幅な減少や、経費削減、在宅勤務率の向上を目指している。将来的にはRPAを社内に広め、社内全体を通して、業務効率化を実現させたい。

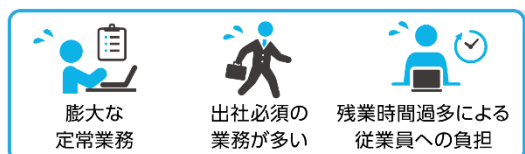
BEFORE

- 生産管理部での長時間残業が常態化
- マニュアル作業が多い
- 従業員の負担が多い

AFTER

- ルーティンワークをロボにお任せ
- 残業時間の大幅な削減・在宅勤務率の向上を目指す
- RPAを通して業務が見える化
複数メンバーで取り組み、よりよい効率化を推進

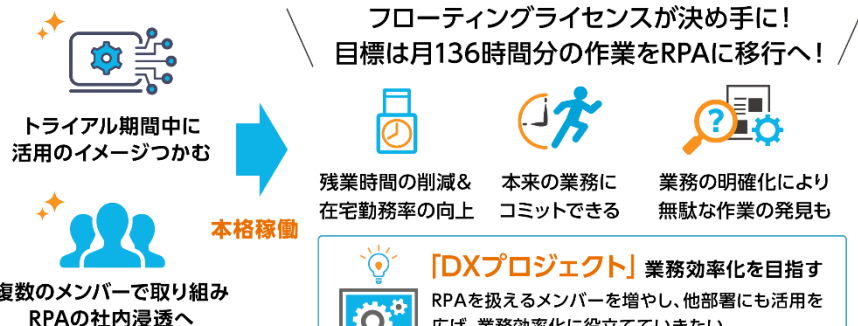
単純なマニュアル作業が多いことで
従業員の残業が常態化
していることが課題に...



業務効率化

- ☑ RPA化対象業務を一覧化し、目標設定
- ☑ 複数メンバーで取り組み、社内でのRPA浸透を計画
- ☑ 属人的な業務をRPAで解消

テスト運用で活用できると実感、月136時間の工数削減を目指す



ソミック石川

株式会社ソミック石川

【設立】1916（大正5）年5月
【所在地】静岡県浜松市南区古川町500
【代表】代表取締役社長 齊藤 要
【WEB】<https://www.somic.co.jp/>

課題

マニュアル作業が多く
長時間残業が常態化生産管理室の定常業務削減のために
RPAの導入を検討

株式会社ソミック石川（以下同社）は、車の足回りの部品であるボールジョイントという部品を製造している開発型メーカーである。

その中で、生産管理室は、生産計画の作成や現場とのさまざまな調整が主な仕事で、約30名が在籍している。

同社の生産管理室では、自社独自のシステムからExcelへ転記するようなマニュアル作業が多く、本来かけるべきではないところにかかなりの時間が割かれていた。

そのため従業員の残業時間も多く、会社から問題提起されていた。

効果

膨大な量の定常業務を
RPAで自動化トライアル期間に作成したRPAが即戦力に
業務の見える化にもつながっている

同社では、トライアル期間中には6つのロボットを作成し、そのうちの2つは毎日のルーティン業務に、残りの4つは月次の業務や不定期の業務に役立てており、あらゆる業務で活用している。

また、RPA作成時、業務の洗い出しを行ったことにより、各個人の業務内容が明確化され、無駄な作業時間の発見ができ、結果として業務改善につながっている。

生産管理部では、今年度のRPA目標作成個数を定め、達成に向けて複数の計画をしているという。

例えば、ひとつの業務に対してメンバー全員が同じRPAを作るといった試み。他のメンバーのやり方を自分の中にインプットしていくことで、作成能力が上がり、かえって業務が効率的になるという想定のおうえだ。

一人のメンバーが作成を抱えてしまうと固定観念が生まれ、業務フローが一択になり、RPA化はできても効率化ができていないという事態もあり得る。そうならないために、複数の人間でより多くの業務を効率化する方法を模索できればと考えている。本来の目的はロボの作成ではなく、業務の効率化なのだから。

現在、さまざまな視点からシナリオ作りができるように、週に一度集まる機会を設け、一週間で作成したRPAを発表会形式で報告、意見交換をしている。

経緯

フローティングライセンス
が導入の決め手に他社製品のテスト、検討するまでもなく
RoboTANGOトライアルで活用のイメージが

「他社がRPAをうまく活用している」という話を聞いたことをきっかけに、複数社からお話を聞いた。

RPA以外の業務効率化ツールも検討したが、定常業務の削減が一番の目的だったため、結果的にRPAの導入を決めたという。

最終的にRoboTANGOに決めたのは、フローティングライセンスがあることが大きな要因のひとつ。

トライアルの時点で実際の業務で動かせるロボを作成できたため、活用のイメージが早い段階でできたことが、決断につながった。

「最初は他社製品のテスト運用も計画していましたが、RoboTANGOのテスト運用の時点で十分活用していけると感じましたし、活用のイメージができたことでRoboTANGOに決めました。」

展望

定常業務をなくし
業務効率化を目指す年間約4,000万円分の効率化の見込み
他部署にもRoboTANGOの活用を広げたい

RoboTANGOの導入により、今後見込める効果は、同社指標で年間約4,000万円分に上る。

年間で1,633時間、月136時間分のマニュアル作業をロボに任せられるという見込み。すべてをRPA化するという目標を達成できれば、4,000万円分の効率化が実現できるという。

「独自システムからExcelへの転記作業や、コピー作業といった定常業務をすべてなくしていけるように、必要なRPAはすべて作成していきたいですし、都度メンテナンスも行っていきたいです。そのために、RoboTANGOを扱えるメンバーを増やしていく方針を固めています。スターティアレイズさんには、今後スクリプトをたくさん追加していただけるとうれしいです。」と、更なる効率化に向け積極的な活用を検討中だ。

また、RPA作成により業務の見える化が進むことで、特定の従業員でなければできなかった業務に誰もが携われるようになれば、将来的に、在宅勤務率の向上にもつながると考えている。

「DXプロジェクト」にも参加、他部署にもRoboTANGOの活用を広げ、業務効率化に役立てていきたい。

毎月発生する経理業務をRPA導入で自動化。 2日かかっていた業務を2時間に短縮し、効率化を実現

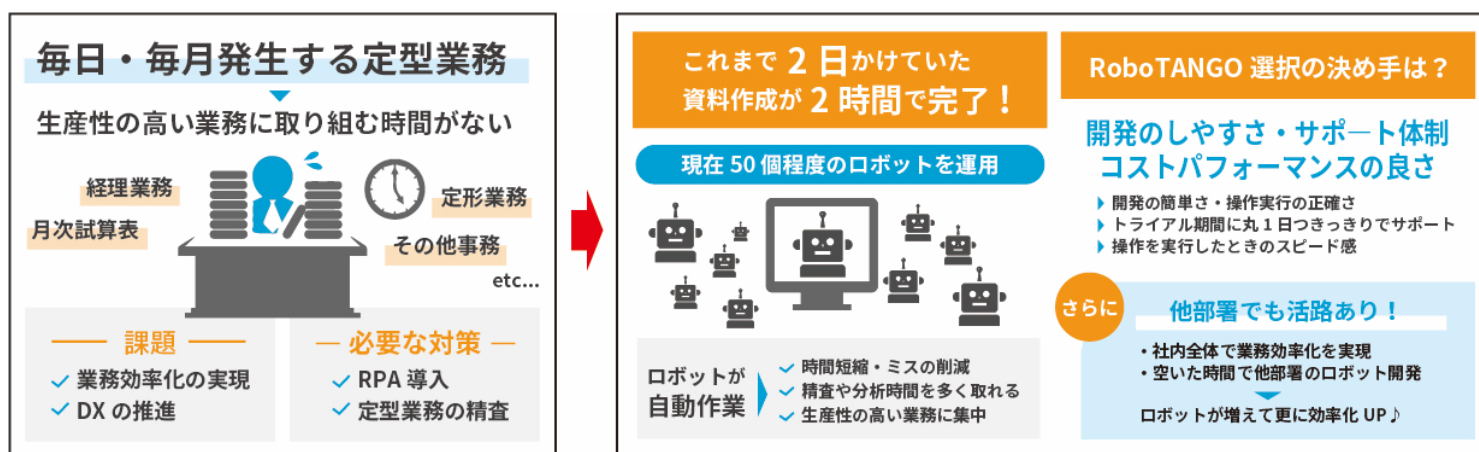
愛媛県に本社を持ち、主にコットンや不織布の製造を行っている丸三産業株式会社（以下同社）。同社では、DXの推進、業務効率化を掲げ、その一環としてRPAの導入を進めていました。そして、複数のベンダーからトライアル期間を経て開発のしやすさやコストパフォーマンスの良さから、RoboTANGOを選択。経理業務を中心に日々発生する業務の自動化や、これまで2日はかかっていたグループ会社9社の月次試算表作成業務を2時間で完了させるなどし、空いた時間で生産性の高い業務に集中できるようになりました。

BEFORE

- 日々発生する定型業務に追われ生産性の高い業務へ取り組む時間が奪われていた
- DXや業務効率化が上手く進んでいなかった

AFTER

- 日々発生する業務を忘れることなく、確実に実行できるようになった
- 月次試算表の作成時間が短縮され、迅速な経営判断が可能になった



丸三産業株式会社

【設立】1984年10月27日
 【所在地】愛媛県大洲市徳森1349番地
 【代表】代表取締役社長 菊池元宏
 【WEB】<https://www.marusan-sangyo.co.jp/>

課題

定型業務に追われ生産性の高い業務に取り組む時間がない

業務効率化の実現やDXの推進を目的とし、RPAの導入を検討

丸三産業株式会社（以下同社）は、化粧綿、綿棒、お茶パックなどの一般向け綿商品の生産、販売、医薬品分野での脱脂綿、清浄綿のほか、コットン100%の不織布「ミラクルコットン」の製造を行っているメーカーである。

DXの推進、業務効率化の実現を代表取締役社長自らが先頭に立ち、企業方針として掲げ、その施策の一つとして、RPA導入はマストとなっていた。

なかでも効率化が喫緊の課題であった経理部門の社員がRPA導入の担当者として任命され、まずは経理部門の定型業務自動化を目的にRPAの選定を始める。

「最初は取引先様からの紹介でRPAを試してみ、そこからRPAの可能性を感じてさまざまな種類があることも知って情報収集を始めました」

「経理部門の自分と情報システム開発部門の社員2人が担当者となり、互いに収集した情報を共有しながら選定を進めていきました」

経緯

トライアル期間でのサポート体制が選択の決め手に

開発のしやすさとサポート体制、コストパフォーマンスの良さから導入を決意

2人の担当者は、複数のベンダーから話を聞いたり、資料を集めるなどして情報を精査していくなかで、最終候補としていくつものRPAに絞り込み、トライアルを行った。

開発のしやすさ、コストパフォーマンスの良さ、そしてサポート体制の確かさなどを中心にチェックを行い、もっともパフォーマンスの良かったRoboTANGOを選定した。

「最終的な選択のポイントは、操作を実行したときのスピード感と開発の簡単さです。また、実際にロボットを動かしたときの正確さが高くエラーがほとんどおきなかったことも非常に良かったです」

「ほかにも、トライアル期間に丸1日つきっきりでサポートしてくれたのもスターティアレイズさんだけだったので、それで信頼できるようになったのも大きかったですね」

効果

毎日、毎月発生する定型業務の自動化がRPA導入で実現

これまで2日かけていた資料作成が2時間で完了し、生産性の高い業務へ取り組む時間が増加

RPA導入後、経理部門の定型業務を自動化するロボットをまず100個作成し、精査をしながら整理を進め、現在では50個程度のロボットを運用している。

もっとも高い効果を発揮したのは、月次試算表の作成に関するもので、これまでは必要な資料を収集するところから手作業で行い、丸2日かかっていたものがわずか2時間で完了するようになった。

自動化を進めることで、自身の業務負担が軽減されたが、それ以上にこれまで作成にかけていた時間を使い、資料の確認や分析を行えるようになったのは大きな成果。迅速な経営判断にもつながるようになった。

「これまで作成にかけていた時間が短縮されたことで、もっとも大きな成果は、残った時間を分析に使えることです。試算表の精査や分析に長い時間をかけられることで、ミスが減ったのはもちろん、お金を産む生産性の高い業務に集中できるようになったのは大きな収穫です」

展望

RPAの効果を広く告知し、全社での活用を目指す

経理部門中心の活用から広く告知を行い全社で活用の幅を広げ更なる効率化を目指す

現在、経理部門中心にRoboTANGOを活用していて、ほかの部署ではほとんど活用されていない。まだ、告知も十分にできていないのが大きな課題。

経理部門以外で周囲を見ると、人事労務や製造部門などRPAを活用すれば効率化できる業務がまだまだある。ただ、自分たちの業務をしながらロボットを作成するのは時間の制約もありなかなかスムーズには進まない。

今後は、時間を作ってほかの部署への広報も進めていき、全社的に業務効率化を実現させられるようにしていくことが現在の目標。

「現在は経理業務の自動化が中心ですが、経理業務が効率化されれば、ほかの部署用ロボットの開発にかかる時間も生まれるので、ロボットができていけばいくほど、できるロボットが増えていくといういい連鎖を作りたいです」

端末依存しないRoboTANGOでセキュリティ面の不安を解消。現場でも活用できる操作性で社内展開を促進！

熊本県に本社を持ち、スチールの家具を中心に全国のオフィスや図書館、博物館などの文化施設へ納入している金剛株式会社（以下同社）。同社では既にRPAツールを導入していたが、プログラミングの知識が必要となる場面があり操作が難しく、ロボ作成に時間がかかる状況だった。そのため契約更新のタイミングにRoboTANGOへとリプレースを果たした。既存RPAツールではロボットを13個作成していたが、リプレイス後も十分な機能を発揮している。RoboTANGO導入後はフローティングライセンスにより、セキュリティ面での懸念がなくなり、端末固定でなくなったことで社内展開がしやすくなった。今後は社内で勉強会を行い、ロボ開発者を増やし活用の幅を広げていく。

BEFORE

- 既存RPAツールはセキュリティ面で不安が生じていた
- 既存RPAツールではプログラミングの知識が必要になる場面があり、ロボット作成に時間がかかっていた

AFTER

- フローティングライセンスにより、セキュリティ面の不安を解消
- 複数台のPCにインストールできるため、RPA開発者育成がしやすくなり全社展開がしやすくなった
- 操作性が簡単になり、素早くロボ作成が可能に

今まで利用していた RPA ツールは...

操作が難しい



セキュリティ面での不安



- ✓ 情報システム部門と経理部門が運用
- ✓ プログラミング知識が必要な場面があった

- ✓ 今までは端末依存
- ✓ パスワードなど他部署の社員も閲覧可で不安

フローティングライセンスにより各部署でロボットの管理が可能に

より簡単に設定ができるように



セキュリティ面の不安解消



コスト感や使いやすさが決め手

既存のツールより
低コスト

素早い
シナリオ作成

フローティング
ライセンス機能

社内の開発者育成に注力し業務効率化を加速！

フローティングライセンス機能を活用し効率化を加速させていく

各部署で RoboTANGO を使いこなす社員を育成し、横展開を推進



今後の展望

九州デジタルソリューションズ株式会社に活用方法などを相談し、自動化業務を増やす



金剛株式会社

【設立】1947年
 【所在地】熊本県熊本市西区上熊本3-8-1
 【代表】代表取締役社長 田中 稔彦
 【WEB】<https://www.kongo-corp.co.jp/>

課題

プログラミング知識が必要な
既存RPAツール操作が難しくロボ作成に
時間がかかってしまうことも

金剛株式会社（以下同社）は1947年に創業し、スチールの家具を中心に製造・販売を行っている。丸ハンドル式の移動棚を主力製品としており、全国のオフィスや図書館、博物館などの文化施設へ納入している実績を持つ。

同社ではもともと別のRPAツールを利用しており、ネットワークチームが社内全体のロボット開発を行い、経理チームが部署内で開発・運用をしていた。ただプログラミングの知識が必要となる場面があり操作が難しく、ロボット作成に時間がかかる状況だった。

「既存RPAツールの契約更新タイミングにRoboTANGOの紹介を受けまして、コスト感や設定の簡易性を含めてリプレースを検討することになったのです」

また、今までは1つのPC端末で全てのロボを管理してため、システムへのログインパスワードなど、他部署からも閲覧できる状況があり、セキュリティ面にも不安を抱えていた。

経緯

コスト感や使いやすさが
決め手となりリプレースロボットの作りやすさを重点的に置いて
RoboTANGOを選択

既存RPAツールのリプレースのタイミングで海外製RPAツールも含めて検証したが、ロボットの作りやすさを重点に置いて選択していった。

RoboTANGOであれば、ロボット開発者に対してライセンスを分け与えることができるフローティングライセンス機能を持っているので、説明の際に自分のPC環境でロボが動作する様子を見ながら分かりやすく説明でき、育成が容易になった。

この機能によりロボ開発者の育成に活かせることや、操作が簡単だったことなどがRoboTANGO導入の決め手となり、2022年11月にリプレースを果たした。

「RoboTANGOは、既存のRPAツールより低コストで操作性も簡単だったことも導入を後押ししてくれました」

また、RoboTANGOは操作が簡単であるため、既存RPAツールと比べて素早くシナリオ作成ができるのも導入の決め手となった。

効果

セキュリティ面の不安を解消し
たフローティングライセンス複数の端末にインストールでき
各部署で管理できるように

既存のRPAツールは端末依存していたため、1つのPCに利用者がリモートでつないで開発・実行をするという動き方をしていった。

ただそれでは、システムへのログインパスワードを他部署の社員が閲覧できる状況になっていたため、セキュリティ面に不安があった。しかし、RoboTANGOのフローティングライセンス機能により、部署ごとにライセンスを振り分けてロボットを管理できるため、不安を解消することができた。

現在、運用しているロボットは、ネットワークチームで8個、経理チームで5個作成し、社内の定型業務である経理部門の事務作業や販売管理システムや勤怠システムなどと連携した業務を自動化している。

「導入前にトライアルを含めて1か月間、検証しましたが、画面キャプチャーや操作が簡単なことで、ロボット作成が素早くできるようになりました。RoboTANGOは、より簡単に設定できるところが弊社に合っていると思っています」

展望

社内の開発者を育成し
横展開を進めたいフローティングライセンス機能を活用し
効率化を加速させていく

現在、実際に削減されている時間と導入コストを比較すると、まだまだ費用対効果が得られていないのが実情だ。

そこで今後、RoboTANGOで自動化していく業務を広げていきたい。そのために、社内でのRPA操作勉強会を開催。フローティングライセンス機能を活用しながらロボット開発者を増やしていく予定だ。

社内から要望があったものを含め、今後は10～15個程度の業務の自動化が課題として挙がっている。

具体的な業務としては、ホームページからの問い合わせなど、フォームに入力された各データを集計して、それを1つのデータにまとめていく作業の自動化だ、現在では手動で行っている、この作業もRoboTANGOで自動化していきたい。

「これまでネットワークチームが中心となって行っていたロボット開発ですが、フローティングライセンス機能を活用することで現場の担当者にRPAを広めることができ、ロボットの開発者となれるよう育成に注力し、業務効率化を加速させていきたいです」

DX Suite (AI-OCR) とRoboTANGO (RPA) の連携活用で人的ミスの軽減を実現

主に鉄粉をスウェーデン本社から輸入して直接販売もしくは加工販売を行っているヘガネスジャパン株式会社（以下同社）。同社では、工場での入出荷業務のほとんどを手作業で行っていましたが、人的ミスによる誤入力の解消が喫緊の課題となっていました。そこで、AI-OCRとRPAを導入・連携させ、業務の自動化を行うことで人的ミスの解消と業務効率化を実現しました。

BEFORE

●工場での入出荷業務において、紙の伝票の読取、データ化、統合基幹システムへの転記のほとんどが手作業のため、人的ミスが増えていた

AFTER

●紙の伝票をAI-OCRで読み取りデータ化し、統合基幹システムへの転記はRPAを連携させ自動化することで人的ミスの解消を実現した

入出荷業務のほとんどを手作業

手作業での人的ミス



- ✓ 紙伝票を目視チェック
- ✓ 手作業でシステムへ転記
- ✓ 入力ミスの増加

複数人でのチェック



- ✓ 複数人でチェックで工数がかかる
- ✓ 人的なミスの解消が喫緊の課題

AI-OCR「DX Suite」とRPA「RoboTANGO」の連携で人的ミスの軽減を実現

紙伝票をAI-OCRで読み取りデータ化



「DX Suite」で紙書類の読取後にExcelデータ化

システムへの転記をRPAで自動化



「RoboTANGO」の録画機能を活用してシナリオを簡単作成

ミスの軽減や業務効率化を実現!!

導入の決め手

手書き文字の読取精度と自動化による費用対効果

POINT 01 手書きの注文書でも全く問題なく読み取れる精度

POINT 02 読み取ったデータをシステムに転記する作業の自動化

今後の展望



RoboTANGOの活用を広げるため4人の従業員それぞれが積極的に使用している。本社でも作成したロボを共有し、効率化を図りたい。

Höganäs

ヘガネスジャパン株式会社

【設立】1797年
 【所在地】東京都港区赤坂4-2-19赤坂シャスターストビル
 【代表】グループ社長兼CEO Fredrik Emilson
 【WEB】<https://www.hoganas.com/ja/>

課題

毎日発生する入出荷作業で
誤入力が増えていた入出荷作業のほとんどが手作業で
誤入力トラブルが増加、解決が急務であった

ヘガネスジャパン株式会社（以下同社）は、スウェーデンにある本社から鉄粉を輸入し、直接販売もしくは加工して販売を行っている企業である。

業務の課題となっていたのは、工場での入出荷作業で、紙媒体で来る帳票のデータ化、Excel入力からの統合基幹システムへの入力のほとんどを手作業で行っていた。

人の手を使って行う作業のため、転記、入力ミスといった人的ミスも多く、誤入力によるトラブルが増加し、改善が急務であった。

「件数はそれほど多くはありませんでしたが、毎日発生する作業で、人の手で何重ものチェックを繰り返さなければならず、手間もかかります。ただとにかく誤入力はすぐにでも解消しなければならぬ大きな課題となっていました」（勝俣氏）

効果

AI-OCRとRPAの連携で
人的ミスの解消を実現AI-OCRとRPAの連携で入力ミスの解消を実現。
録画機能の活用で操作もスムーズに

同社では、紙媒体の読取に「DX Suite」。Excelに転記されたデータを統合基幹システムに入力する作業に「RoboTANGO」を活用。双方を連携させることで、これまで人の手で行ってきた作業のほとんどが自動化され、入力ミスの解消による社員の精神的負担軽減を実現した。

RPA運用の課題として、現場で実際に利用するものが使い方を理解できずに機能が最大限に活用できないケースだ。しかし、同社では、「RoboTANGO」の録画機能を使い、基本の操作を録画機能で録画し、それを現場で利用する社員に見せた。これにより、業務の属人性が生まれず、誰もが簡単に操作できるように。

「導入当初は作業をする社員がスムーズに使えるようになるまで時間がかかるかなと思っていましたが、録画機能を使うことでまったく問題なく運用できるようになりました。

「DX Suite」も導入時に設定をサポートの方から教わったとおりにしたら、すぐに読み込めるようになったので、どちらも心配は無用でした」（勝俣氏）

経緯

費用対効果と読取精度の
高さが導入の決め手紙媒体の読取精度と自動化による費用対効果の
高さからAI-OCRとRPAの導入を決意

同社では、紙媒体の読取、転記ミス軽減を目的とし、OCRの導入を検討していた。いくつかのOCRを試した結果、webベースで本社を通さずに試せたこと、AI搭載で読み取り精度が高かったことから、AI-OCR「DX Suite」の導入を決定。

さらに「DX Suite」の導入を進めるなかで、RPA「RoboTANGO」を紹介され、Excelでデータ化されたものを統合基幹システムに入力する作業の自動化ができ、さらなるミスの軽減が可能になるとして、「DX Suite」と合わせての導入を決めた。

「OCRはかなり前から導入の検討をしていましたが、なかなか条件が合うものがありませんでした。「DX Suite」導入の決め手になったのは、手書きの注文書でもまったく問題なく読み取れる精度でPDF化できた点です。

また、「RoboTANGO」導入の決め手になったのは費用対効果ですね。以前はソフトのカスタマイズだけで数百万といった見積りもありましたが、弊社の予算内でもっとも高い効果が得られると考え、導入を決めました」（勝俣氏）

展望

今後は工場だけではなく
本社での活用も検討今後は本社業務でもRPAを使い、
積極的に効率化を進めていきたい

現在、「DX Suite」「RoboTANGO」のどちらも工場で入出荷業務のみでの運用となっているため、今後は他部門や本社でも運用し、業務効率化を進めていくことを目標としている。

「工場では検査結果の入力も自動化を進めていきたいと考えています。また、本社でも工場と同じ受発注業務を行っていますので、今後はそちらにも展開して業務効率化できればいいかなと思っています。

実は工場で導入した際、フローティングライセンスを申し込んでいるので、状況を見つつ、本社でも運用を始めようと考えています」（勝俣氏）

他社（海外製）RPAツールからRoboTANGOへのリプレイスを実現。手厚いサポートで活用範囲拡大へ

化粧品、健康食品、美容家電等の企画販売を行っている株式会社SOLIA（以下同社）。同社では、業務効率化を目的として海外製のRPAツールを活用していました。しかし、英語表記で使いにくい点や無料版であったため、サポートサイトが使えないなどを理由に、日本製RPAへのリプレイスを検討。いくつかの候補のなかから、プログラミングの必要がないうえ、価格面や手厚いサポートがあるなどの点から、RoboTANGOの導入を決め、活用範囲の拡大を目指しています。

BEFORE

- RPAツールは導入していたものの海外製かつプログラミングの知識が必要なうえ、サポートも十分ではなかった。
- 人材不足もあり、業務効率化が喫緊の課題となっていた。

AFTER

- 比較的安価かつ手厚いサポートが受けられる日本製RPAツール「RoboTANGO」の導入を果たした。
- スポットで作成したロボットで早速効率化を実現。プログラミングの知識を必要としないため、容易に作成でき、今後さらに活用の幅を拡大できるようになった。

以前は海外製のRPAを導入

抱えていた課題



担当者が退職して...



RPAを運用できる人がいなくなった

簡単操作でロボ作成できる RoboTANGO へリプレイス

RoboTANGO への決め手は...



サポートサイトの活用

「分からないことがあれば、サポートサイトをみて解決」

初めてのRPAでも導入後すぐにロボを作成

「録画機能を使ってスムーズに運用可能」

ECサイトの価格変更業務を自動化！

人の手で行うと160時間かかる業務をRoboTANGOで自動化！



5人で一週間分の作業



自動処理で160時間短縮

今後の展望

各部署からヒアリングを行い全社的にRoboTANGOで効率化を進めていく
 今後は他の社員のRPAに関する知識を付ける機会を設け、社内で運用拡大を目指す

SOLIA

株式会社SOLIA

【設立】2013年4月
 【所在地】東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル東館10階
 【代表】代表取締役社長 西口 征郎
 【WEB】<https://www.solia.co.jp/>

課題

RPAを活用していたが海外製で操作が難しかった

担当者退職と海外製RPAツールの難しさから新たなRPAツールへのリプレイスが急務であった

株式会社SOLIA（以下同社）は、主に化粧品、健康食品、美容家電などの企画販売を行っている企業である。

業務の効率化を目的にBIツールやRPAツールの活用を行っていたが、活用していたRPAツールが海外製で画面操作も英語表記で難しく、プログラミングの知識も必要なものであった。

また、無料版を利用していたこともあり、サポートも十分に受けられなかったうえ、主にロボットの作成をしていた担当者が退職してしまったため、新たなRPAツールの導入が喫緊の課題となっていた。

「RPAツールでロボットを作成していた部署には私と上司の2名しかおらず、担当者であった1名が退職してしまったため、日本製のRPAツールへのリプレイスを検討するようになりました」（前田氏）

効果

手作業で160時間かかる業務時間の短縮を実現

ECサイトでの価格改定業務をRPAで効率化。手作業で160時間かかる業務を24時間までに短縮

同社では、RoboTANGOでスポットとして、3,200件あるECサイトの価格改定業務を自動化させるためのロボットを作成。手作業で行う場合、4~5人が1週間かけて行う業務を自動化し、約6分の1まで時間短縮を実現させた。

現在では、前任の担当者がいるときは、ほとんどロボット作成を行っていなかった方が1人で作成を担当。プログラミング知識もなく、RPA初心者でもロボットを作成し、実際に成果を上げたことから、今後はさらにさまざまな業務での活用を検討している。

「スポットで作成したロボットは合計で8個で、作成にかかった時間はすべて合わせて4~5時間程度です。トライアルの段階で以前のツールで作成したものをRoboTANGOで作成してみて、操作感を得たのも大きかったと思います。

わからないことがあればサポートサイトを活用しますが、本当にどうしてもわからないといったものは現状ありません」（前田氏）

経緯

価格の安さと手厚いサポート体制が導入の決め手

プログラミング不要な点と手厚いサポート体制があることからRoboTANGOの導入を決定

同社では、RPAツールの設定を行っていた担当者が退職してしまうこともあり、日本製で操作がわかりやすくプログラミング知識を必要としないRPAツールへのリプレイスを決め、複数候補のなかから、検討を重ねたうえで、RoboTANGOの導入を決めた。

RoboTANGOに決めた要因は2点。プログラミングの知識がなくてもロボットが作成できる点、そしてもう一点は、サポート体制が充実していた点である。サポートサイトが丁寧につくられていたことや、無料トライアルの時点から営業担当者のサポートも手厚かったこと、さらにほかのRPAツールに比べ安価に導入が可能だったことが導入の決め手となった。

「プログラミングの知識がなくてもロボット作成ができるのは大きな決め手となっています。また、営業担当の方には導入の際、何回かにわたって説明とレクチャーをいただいたので、その時にできることが理解できてすごくありがたかったです。サポートが足りなかったという印象はほとんどありませんでした」（前田氏）

展望

今後は複数の部署・業務でもRPAの活用を推進予定

以前のツールで作成したものを移管し終わったら新たなロボットの作成も

現在。同社では以前のRPAツールで作成したロボットをRoboTANGOで新たに作成する移管業務を進めている。

そして移管業務を終えたら、部署からヒアリングを行い、効率化を進めたい業務でのRPA化を進めていきたいと検討している。

「現状、リソース不足もあって予定とおりに移管業務が進められていませんが、新たな人材が入ればまた目標を立てて移管作業を行い、それが終われば積極的にさまざまな部署での業務でRPA化を推進したいと考えています。

まずは、どんな業務がRPA化できるのか、他の社員のRPAに関する知識をつける機会を設け、今後社内で運用を拡大させていきたいです」（前田氏）

1ライセンスを複数人で使用できる点が魅力 定型業務へRPAを導入し、様々なメリットを享受

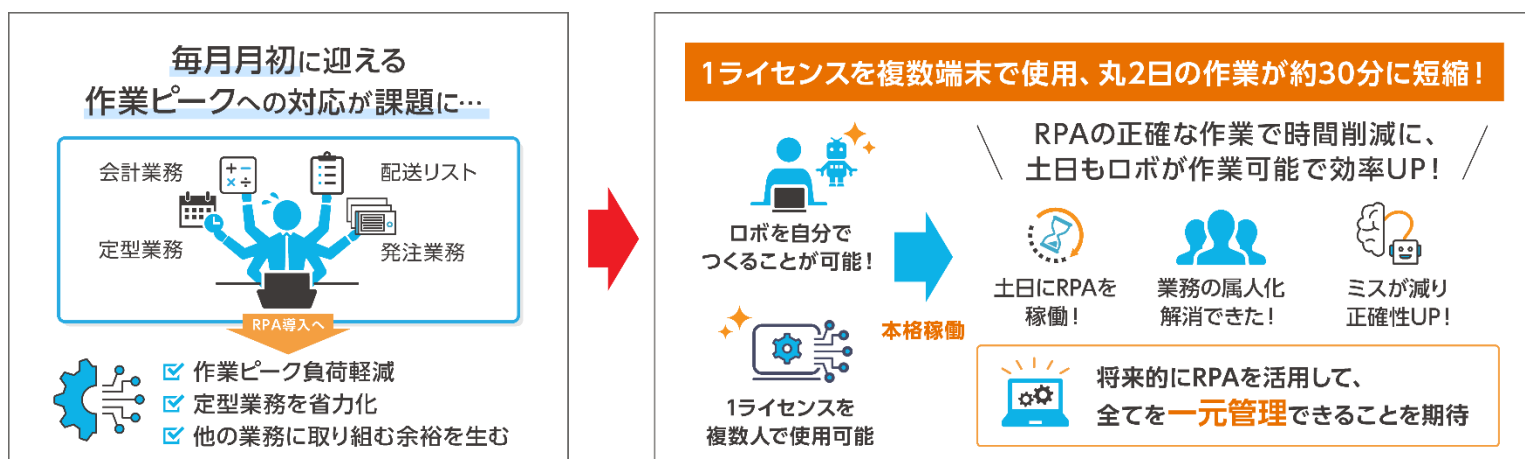
新聞などの定期刊行物を中心に、印刷用紙の卸売を主な事業としている東芳紙業株式会社（以下同社）では、日々の細かい定型業務や毎月月初に迎える作業ピークに対応することが課題のひとつだった。同社は、RoboTANGOを導入し、会計業務やリスト作成などの定型業務へ取り入れ、作業時間の削減に成功した。また、RoboTANGOの導入は、作業の平準化や業務フロー見直しのきっかけにもなり、業務効率化にも繋がった。

BEFORE

- 会計業務や配達物リスト作成など、定期的に発生する業務が多い
- 月初に業務負荷が集中することが課題

AFTER

- 会計業務など定型業務で作業時間削減に成功
- 作業の平準化や業務フロー見直しのきっかけにもなり、効率化にも繋がった



東芳紙業株式会社

- 【設立】 1959年8月3日
 【所在地】 東京都千代田区神田神保町2-2-34
 千代田三信ビル 8F
 【代表】 境 和彦
 【WEB】 <https://toho-paper.co.jp/>



課題

たくさんの定型業務 月初に作業負荷が集中

会計業務が月初に集中して発生 作業ピーク対策としてRPA導入を検討

東芳紙業株式会社（以下同社）は、新聞などの定期刊行物を中心に、印刷用紙の卸売を主な事業としている。

同社では、定期刊行物を中心に取り扱っていることから、毎月、毎週、毎日など定期的に発生する業務が多く存在する。

特に会計業務では、請求書の発行や支払いといった業務が月初に集中して発生する状況だった。また、先々使用するものの発注業務など、日々発生する細かい定型業務もあり、月初の作業ピーク時には、それらの業務にも同時対応しなければならない状況だった。

作業が集中するピーク期間への対策は、同社の課題のひとつであった。

同社は、日々の定型業務や作業ピーク時の業務の一部をロボにサポートしてもらうことで、作業負荷を改善したいという思いからRPAの導入を検討したという。

また、RPAを活用することで定型業務を省力化し、他の業務に取り組む余裕を生むことも狙いのひとつだった。

効果

会計業務やリスト作成で 作業時間の削減に成功

RPAの正確な作業で時間削減に 土日にもロボが作業可能で効率UP

同社では、会計業務やリスト作成などの日々の定型業務にRoboTANGOを導入し、作業時間の削減に成功した。

月次の計上業務では、丸2日かかっていた作業が約30分に短縮された。以前は会計ソフトに手入力しており、作業ミスが発生しやすかったが、RPA化したことで作業の正確性が高まり、余分なチェックが不要になったという。

毎週の売上実績集計でも、RPAを有効活用している。他の社員がシステム入力中は売上データの抽出ができず、タイミングが限定されていたが、現在は土日にRoboTANGOでまとめてデータを抽出している。都合の良いタイミングで作業可能になり、ストレスも軽減されたという。

作業の平準化もRPA化の大きなメリットだという。同社では、顧客への配達物リスト作成にもRoboTANGOを導入した。従来は担当者が毎日Excelで作成していたが、現在は誰でも作成可能だ。

また、RPA導入により様々な業務のフローを見直すきっかけにもなり、効率化に繋がったという。

「仕事の流れはもとより、『この業務の流れにはこういうやり方があるのでは?』と、様々な気づきを得られたことは大きな収穫でした」（境氏）

経緯

自分でロボを扱えるRPA 複数で使用可能な点も魅力

1ライセンスを複数のPC端末で使用可能 費用対効果の高さも期待

PC操作を録画してロボット作成できるものを探していたところ、RoboTANGOというのがあるらしいということでRoboTANGOの存在を知ったとのことだ。

複数の他社製品についても説明を聞いたが、RoboTANGOはロボを自分でも扱えるという点に魅力を感じたという。せっかくRPAを導入するのならば、自分たちで作成していけるものが良いとの思いがあった。

また、RoboTANGOは、1ライセンスを複数のPC端末で使用可能な点も導入を決める後押しになったという。複数人が使用できることで、より多くの業務へのRPA活用を期待でき、費用対効果を考えるうえでもプラスに働いた。

「1ライセンスにつき最大5人使えるところがRoboTANGOの決め手になりました。自分のデスクで使えますし、今後は社内でも扱える社員が増えて、業務幅も拡大していくのではないかと考えています」（境氏）

展望

ロボ稼働中の時間も 有効活用する解決策を

ロボ稼働時はPC操作不可 稼働タイミングの選択でより便利に

同社は、今後もRPAを有効活用していきたいと考えているが、まだ課題もあるという。

同社では、個人PC端末でRoboTANGOを稼働させているが、稼働時は同PCで他の操作ができず、複数作業を同時進行できない点を歯がゆく感じているという。

ロボを稼働させる専用端末と個人端末を併用する、来客対応中などPCを使用しないタイミングを見計らってロボを稼働させるなど、解決策を模索している。

ロボを直接操作して稼働させるのではなく、外部ツールからロボへ稼働指示を出せる機能があると、より便利になるという。将来的には、会議や来客などの合間に、携帯電話などから稼働指示をしておくと、ロボが動いて作業完了してくれるようになるのを期待している。



たった10人の会社で月20万円以上のコストカットを実現。 140時間の入力時間を全て営業の時間へ。結果売上UP！

神奈川県鶴見に本社を構え、建設資材や建築資材の販売を行っている、株式会社鶴見の飯田（以下同社）。同社では、既存業務システムの定型入力業務にかかる手間、時間が大きな負担となっていました。そこで、業務効率化を目的として、RPAの導入を決意。導入後は、パート1名分の作業と社員作業合わせて140時間以上が0になり、社員の労働時間が減り、本来行うべき業務に集中できる環境構築に成功しました。また、RPAの導入がこれまでのランニングコスト削減にもつながっています。

BEFORE

- 入力業務だけで月に140時間もかかってしまっていた
- 入力業務に手間を取られ、本来やるべき営業業務が行えていなかった

AFTER

- 大幅なコスト削減を実現
- 残業時間が削減され社内の雰囲気が明るくなった
- 入力作業が減り、本業に集中できる時間が増えた

月 140 時間の膨大な入力作業



導入前の課題

- ✓ 本来やるべき業務に注力できていなかった
- ✓ 残業時間による社員の負担増

使いやすさ・UIが抜群！

展示会にて RoboTANGO に即決



- 4～5社で比較検討し、RoboTANGOに決定
- 費用対効果が出せるかじっくり確認
- 導入支援サービス^(※)利用で活用スピードアップ

※業務把握・改善案を含むロボ制作の有償支援サポート

ランニングコスト削減 社員の精神的負担軽減

システム
コスト削減

自動化が進み
高機能＆高価な
システムが不要に

社員の負担
削減

担当業務への専念
残業時間削減

お客様対応
迅速化

時間短縮で
丁寧迅速な対応



社内の雰囲気が明るく
従業員満足度が向上

— 打合せ・情報共有の
時間増加

株式会社鶴見の飯田

- 【設立】1919年
- 【所在地】神奈川県横浜市鶴見区栄町通2-15-1
- 【代表】代表取締役社長 飯田 広哲
- 【WEB】<https://5211011.jp/>



iIDA

課題

膨大な入力作業による残業時間の増加が大きな負担に

業務効率化による残業時間の削減を目的として、RPAの導入を検討

株式会社鶴見の飯田（以下同社）は、地域密着の建設・建築資材販売店として創業100余年の歴史を持つ会社である。

同社の営業部門では、受注後の見積作成や販売管理システムへの入力作業が多く、残業時間過多や本来かけるべき営業業務に時間を割けていない点が大きな課題となっていた。

「入力作業を業務時間中にできなくて、朝早く来たり業務が終わった後にやったりで、入力作業のために社員が残業するなど、迅速に解決しなければなりませんでした。」

これらの課題解決のため、社長自らが先頭に立ち、RPAの導入を進めた。

「RPAの存在自体は以前から知っていて、上手く活用すればこれまでの業務に革命が起これると感じていました。ただ、以前は価格面で躊躇していたのですが、少しずつ普及が始まって弊社でも手が出せる価格になっていたことで、本格的な導入を検討し始めました。」

経緯

使いやすさとサポート体制からRoboTANGOを選択

展示会で価格やサポート体制から導入を進める。シナリオ策定や社内調整の後、契約、導入へ

社長が自ら展示会に行き、RoboTANGOを紹介され、そこで使いやすさやサポート体制の充実度、価格などから、即決。

「導入の決め手となったのは使いやすさです。RPAはUIが重要だと思っていたので、他のサービスも4,5社は見ましたが、そのなかでもRoboTANGOはUIが非常に良かったので、それが導入を決めた一つの理由です。」

「後は価格とサポート体制です。RPAの導入にかかる費用と実際に使ってペイできるかどうかは時間をかけて確認しました。また、サポート体制が充実していたのも、とても良かったです。」

「展示会で担当者の方とお話しをして、その場でRPAの導入検討を始めました。一応、RPAを活用する業務の選定や自社の繁忙期を避けるために半年間の準備期間を置きましたが、準備ができた段階で※導入支援サービスというサポートプランを利用して本格導入しました。」

※導入支援サービスとは、お客様の業務把握・改善案を含めた口本制作の有償支援サービスです。

効果

迅速なお客様対応と社員の満足度向上を実現

ランニングコストと残業時間の削減により、趣味や家族と過ごす時間が増加

RPAの導入でランニングコストの大幅削減を実現

「従来、受注内容の情報をスプレッドシートに入力し、それを業務システムに入力していました。しかし、スプレッドシートとRoboTANGOがあれば、多機能な業務システムではなく、機能を限定した安価なシステムでも十分に業務は進めていけるようになったんです。」

「そこで、既存の業務システムから安価なシステムに乗り換えたことで、ランニングコストが年間で約100万円も削減されました。また、RoboTANGO導入によってシステムの見直しができ、事前には想像していなかった効果も得られました。」

入力作業が自動化されたことで残業時間の削減を実現

「これまで入力作業は朝早く出社したり、業務時間終了後に行っていましたが、RPA導入で自動化されたため、残業時間が大幅に削減し、社員の負担が軽減されました。」

「社員によっては、早く帰って家族と過ごす時間を増やしたり、またある社員は業務終了後にジム通いを始める、18時から始まるライブを見に行くなど、自由に使えるプライベートな時間が増えました。」

社員の精神的負担軽減・お客様への対応迅速化

「入力作業は直接売上につながる仕事ではありません。しかし、入力ミスをする場合によっては数十、数百万円違いの請求書を作ってしまうかもしれない。また、お客様に提出する見積書の作成があるため、ミスをするとお客様にご迷惑がかかってしまいます。簡単な作業であっても正しく入力するのが当たり前でミスは許されない作業です。」

「RPAの導入で入力作業が自動化されることのメリットは時間の短縮以外に社員の精神的負担の軽減も大きいですね。正しくできて当たり前のプレッシャーから解放されますので。さらに短縮された時間を使ってお客様への対応も迅速に行えるようになりました。」

社内の雰囲気明るくなる

「これまでは、入力作業をしている間、みんな黙々とやっていました。RPAの導入でそれがなくなり、早く帰る人もいれば、残って仕事の話しをする人もいますが、そうした余裕が生まれたことで社内全体の雰囲気が明るくなったという付加価値的な部分の効果も大きいですね。」

「弊社は今、営業に力を入れて行きたいと考えているのですが、そのための打ち合わせや情報共有ができるのは、入力作業がなくなり時間や精神面での余裕ができたからだと思っています。」

本来の業務に集中できるようになったことでの従業員満足度向上

「たとえば、営業や内勤営業の社員が業務の多くを入力作業に費やしている状況はストレスが溜まると思います。しかし、RPA導入によってその作業が軽減され、本来自分がやろうと思っている自分の力が生かせる領域に時間を使えるようになったことで、従業員の満足度向上にもつながっていると思います。これも社内の雰囲気同様、導入前の時点では気づけなかった効果ですね。」

RPAとOCR導入により銀行口座の入力作業や請求書データの登録作業を自動化。さらに業務フローのデジタル化も実現し、ヒューマンエラーの減少に成功。

マンションの清掃管理、建物設備管理などマンションの総合管理業務を行っている株式会社エステム管理サービス（以下同社）。同社では、顧客に関わる重要業務のミス防止や経理業務、マンション管理周りで日々発生する定型業務の多さから、担当者の負担軽減を目的としてRPAの導入を検討。「費用感」「初心者でも簡単に操作できる」「複数人で使える」などからRoboTANGOとAI-OCRのDX Suiteを選択。定型業務の自動化により担当者の負担を軽減し、業務効率化を実現した。今後はロボを作成できる人材を増やし、グループ会社での活用も視野に入れている。

BEFORE

- 経理やマンション管理周りの定型業務が多く、担当者の負担が大きかった
- 毎月700~800件の口座振替業務を手作業で行っていた
- 毎月数百枚以上印刷する作業があり、対応に1~2営業日かかっていた
- 契約や金銭が絡む重要業務において、手作業ではミスが起こるリスクも高く、軽減策の実施が急務であった

AFTER

- 多くの手作業が自動化されたことで作業量が大幅に削減した
- 定型業務の自動化で、重要業務のミス防止、担当者の負担軽減が実現した
- 業務の自動化により覚える業務が減少し、新入社員でもすぐに仕事を任せられる環境が整備された
- 月末の多忙な時期でも余裕が生まれ、他の業務に集中できるようになった

ミスが許されない請求書の処理や 繰り返し業務が多くあった



繰り返し業務・定型業務が多く 担当者の負担が増大

経理業務のほとんどが 手作業での処理

ミスが許されない業務で Wチェックの工数や 精神的負担が大きい

課題

多くの紙の処理・PC業務での手作業
業務効率化・人的ミス防止

RPAとAI-OCRの導入で 手作業が約100時間削減！

- 口座振替**
月15時間の作業がゼロに！
- マンションごとの銀行口座の入出金データ取得作業**
作業時間削減&ミスの軽減&社員の負担軽減につながった
- 管理組合の入出金データの印刷**
月64時間の作業がゼロに！
- 自転車やバイクの申し込み・解約の入力処理**
DX推進の一環で、申込フローをQRコードで行えるようにデジタル化し、人的ミスを削減！

属人化を解消し、
部署全体の残業時間を削減



月末の忙しい時期でも
余裕がうまれた



他の業務に集中
できるようになった



人の作業が減り
覚えることが
少なくなった



入社後すぐに仕事を
任せられる
ようになった



株式会社エステム管理サービス様

- 【設立】1977年12月
- 【所在地】大阪市中央区南船場2丁目9番14号 NEビル2階
- 【代表】代表取締役社長 山下 賢治朗
- 【WEB】 <https://www.estem-k.co.jp/>

課題

手作業での紙の処理・PC作業が多くミス防止が課題だった

請求書の処理や口座振替の登録など、ミスの許されない業務が従業員の負担となっていた

株式会社エステム管理サービス（以下同社）は、マンションの清掃管理、建物設備管理などマンションの総合管理業務を行っている。

同社では、マンション管理の周辺業務やマンションごとの銀行口座の入手金データを取得する作業といった定型業務や紙の請求書の処理業務が多く、担当者の負担を大きくしていた。

特に顧客に請求する金額を間違ってしまうと、信頼を失うなど会社の損失に繋がってしまうため、ミス防止を強化していきたいと思っていた。

「口座振替の登録、自転車やバイクの駐輪場申し込みと解約の入力処理、銀行口座の入出金データ取得などが月に数百件あり、多くが手作業でした。

とにかく同じことを繰り返す作業が多かったため、どうにかしたかったのと、手作業による入力ミスを減らしたいというのが大きな課題となっていました」（櫻尾氏）

経緯

「複数人で使える」「安価」「初心者でも使える」が決め手

10社近くのRPA製品と比較検討し、RoboTANGOを選定

同社では、定型業務の効率化を目的に、紹介や担当者自ら調べたうえで10社近くのRPAを検討した。

検討を開始した時点では、グループ会社がすでに他社のRPAを使用していたため、同じRPAの導入を考えたものの、費用と操作性の面から断念。新たに複数のRPAを検討した結果、RoboTANGOに行きついた。

決め手となった最大の理由は、5台のパソコンにインストールして使える点。将来的に経理部門の15名全員のパソコンにインストールし、活用していきたいと考えているため大きいポイントであった。また、費用が安かった点や使い勝手がよく、初めての人でも簡単に操作が可能な点も導入の決め手となった。

「1つのライセンスで5台も入れられるというのは大きかったですね。それと使い勝手がよければ最安値ではなくても問題なかったとは思いますが、上司に了承を得る段階で、やはり値段の部分は大きかったです」（櫻尾氏）

効果

重要業務のミスの軽減、手作業の大幅削減に成功！
自動化により属人化を解消し、部署全体の残業時間を削減

RPA導入後、主に経理業務やマンション管理周辺業務で日々発生していた定型業務の自動化が実現。これにより、ミスが許されない業務はRPAの正確な操作によりミスが軽減し、担当者の精神的な負担軽減につながった。

また、自動化により覚えるべき業務が減少し、入社してすぐの新入社員にも任せられるようになったことで部署全体で残業時間の削減も実現した。

(1)銀行口座の入力（口座振替の登録）

紙の請求書を基幹システムへ登録する作業を手作業で行っており、毎月数百件、多い時では700～800件発生していて処理をするのに毎日30分かかっていた。

< AI-OCRとRPAの導入後 >

口座振替の用紙をPDF化した後、AI-OCRでスキャンしてExcelデータ化し特定のフォルダに保存。その後RPAで基幹システムに口座登録という流れをボタン一つで、ほぼ自動化できるようになった。

(2)自転車やバイクの申込・解約入力処理

今までは管理人と住人が直接やり取りを行い、紙に記入後、FAXで管理会社に送信・処理していたが、ヒューマンエラーが多発。

< RPA導入後 >

RPAで自動化しやすいように紙の使用を辞め、顧客が直接QRコードから申請し、まとめてExcelで抽出できる仕様に変更するなど、RPA活用のために業務フローの見直しなども行った。抽出したExcelデータを基幹システムに登録し、請求データを作成する業務をRPAで自動化し、ミス削減と効率化を実現した。

(3)銀行口座の入出金のデータを取る作業の自動化

電話代、水道代などマンションごとの管理費の引き落としといった紙の請求書が送られてくるのを手作業で基幹システムに登録していた。ミスが許されない業務であったため、社員が担当していた。

< AI-OCRとRPAの導入後 >

AI-OCRでスキャンしてデータ化し、RPAで基幹システムに登録する作業を自動化した。これにより、ボタン一つで正しい情報が入力されるようになったので、だれでも対応できるようになり、属人化が解消された。

(4)ネットバンクから必要書類の印刷

毎月管理組合の入出金データを数百枚以上印刷する作業が発生しており、対応に1日～2日ほどかかっていた。特に他の仕事が集中する月末に支払いに関する印刷作業が非常に多く、かなり社員の負担となっていた。

< RPA導入後 >

ネットバンクからPDFを開き、印刷する作業をRPAで自動化した。RPAの導入により大幅に作業量が減ったため、月末の多忙な時期でも余裕が生まれほかの業務に集中できるようになった。

(5)管理人の勤怠管理

数百件あるマンションの管理人の勤怠管理をクラウドシステムで行っている。その勤怠情報を手作業でプリントアウトする作業が1か月に1回発生していた。

< RPA導入後 >

作業自体は簡単だったが、RPAで自動化したことによって手間となっていた作業が自動化され、工数削減につながった。

ご担当者様からのメッセージ

同じ成果を上げるのであれば、できるだけ手間をかけずに効率的に進めたいですね。同じ成果をできるだけ効率的に上げたい方にはぜひ、RPAの利用をお勧めします。最初は「RPAの活用は難しい」といったイメージもあるかもしれませんが、実際に使ってみると思ったほど難しくはありません。慣れれば自分でRPAロボットを作れますし、サポート体制がしっかりしているため、操作面で分からない場合もすぐに教えてもらえます。RPAロボットを作成するための時間は必要ですが、作成後は業務がとてもラクになり効率化も進みますので、検討しているのであれば、ぜひ使ってみることをお勧めします。（櫻尾氏）

手厚いサポート体制が導入の決め手に！ ルーティン業務へRPAを導入し、毎日活用中

土壌改良材メーカーとしてスタートし、現在はコミュニティディベロップメント業や建設コンサルタント業などを展開している東邦レオ株式会社（以下同社）では、従来使用していた他社の無料RPAツールのサポート体制が不十分だと感じていた。同社は、RoboTANGOの手厚いサポート体制に魅力を感じ、日々のルーティン業務へRoboTANGOを導入、担当者の業務負荷の軽減に繋がった。将来的には、基幹システムと他のシステム間のデータアップロード、ダウンロードなどにRPAの活用を拡げたいと考えている。

BEFORE

- 以前から他社の無料RPAツールを導入
- しかし、サポート体制が不十分で本格的なRPA活用には至らず

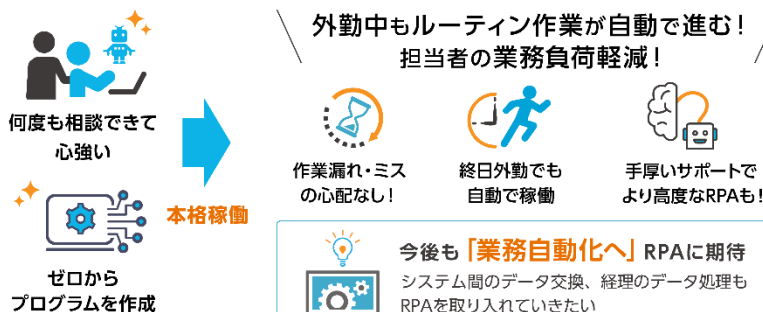
AFTER

- 毎日のルーティン業務に活用し、担当者の業務負荷の軽減に繋がった
- 将来的には基幹システムと他のシステムを繋ぐ役割をRPAへ期待

無料RPAを導入していたが、
運用の難しさが課題に…



手厚いサポートでルーティン業務最適化！基幹システムにも導入へ



東邦レオ株式会社

【設立】1965年1月23日
 【所在地】大阪府大阪市中央区上町1丁目1番28号
 【代表】（会長）橋 俊夫（社長）吉川 稔
 【WEB】<https://www.toho-leo.co.jp/>

課題

従来使用のRPAツールはサポート体制が不十分

他社の無料RPAツールを使用
サポート体制に不安を抱えていた

東邦レオ株式会社（以下同社）は、土壌改良材メーカーとしてスタートし、現在は緑化、造園、建築資材を開発しており、コミュニティディベロップメント業を展開している。

軽くて水はけの良い屋上緑化用の土壌やシステム、壁面緑化など少々ニッチな特殊分野に特化しており、その分野で高い認知度とシェアを獲得している。

また、約5年前の社長交代を機に、積極的に新しい取り組みにも挑戦しており、現在は建設コンサルタントなど、不動産に近い事業も展開している。

同社は、以前から業務にRPAを取り入れていたという。同社が使用していたのは、他社の無料RPAツールだった。しかし、同ツールは、英語表記だったり、操作方法が分からない際に気軽に相談できないなど、使いこなすには難しさを感じていた。

「RPAについては、社内で取り組んでいる従業員がいたことで興味を持ち、無料のRPAツールを使っていました。しかし、そのサービスはサポート体制が不十分だと感じていました」（林氏）

経緯

手厚いサポート体制がRoboTANGO導入の決め手

一緒にプログラムを作ってくれる、何でも相談できる体制に魅力を感じた

同社は、他社の無料RPAツールを使用し、課題に直面していたタイミングで、スターティアレイズ営業担当にRoboTANGOの詳しい話を聞いた。

無料のRPAツールとは違い、RoboTANGOでは手厚いサポートが受けられることを魅力に感じ、導入を決めたという。

「やっぱり何でも相談できるところは魅力的でした。一緒に作りこんでくださるということで、心強さを感じました。無料のRPAツールは上手に操作しきれなかったため、やはりサポート体制は重要だと思いますね」（林氏）

また、無料RPAツールから有償RPAツールへの変更については、特に抵抗は無かったという。同社では、ソフトを使う料金だけではなく、些細なことでも気軽に相談できたり、ゼロから一緒にプログラムを作ってくれるなど、サポートも含めたサービスと捉えているとのことだ。

効果

ルーティン業務でRoboTANGOを活用

担当者が外勤でも作業が進む
担当者の業務負荷の軽減に繋がった

同社では、ルーティン業務にRoboTANGOを導入している。

基幹システム内のデータを顧客管理ツールのデータベースにアップロードする作業は、毎日発生するルーティン業務である。前日に発生した新しい受注を毎日アップロードしていく。

手作業で対応すると1日10分程度の作業だが、毎日発生する煩雑な作業である。

作業担当者にとっては、RPAを活用することで業務負荷の軽減に繋がったという。

また、時間になれば自動で作業するようにプログラムしているので、作業忘れの防止にもなっている。同作業を気にせず、担当者が終日外勤に出たりすることもできる。

「私は営業担当で外出していることも多いので、自動で稼働してくれるRoboTANGOの存在は大変ありがたく感じています」（林氏）

展望

将来的にはシステム間のデータ交換に活用したい

今はまだ課題もあるものの
活用の幅を更に拡大していきたい

同社では、将来的にはRPAを更に活用していきたいと考えている。しかし、現在はまだ動作の安定性などに課題も残るといふ。

「自動で稼働し、エラーはメールで教えてくれる、スケジューラーのような機能があるとありがたいですね」（林氏）

同社では将来的に、基幹システムと他の異なるシステムを繋ぐ役割をRPAに期待している。

他のシステム内の様々なデータを基幹システムにアップロードしたり、システムからダウンロードしたものを変換したり、といった作業をRPAが代行し、自動化される構想を描いている。

なお、今後は売上や請求に関わるような重要なデータを扱う作業についても、RPAを取り入れていきたいとのことだ。

月間600件の入力作業をRPAで自動化。 導入後2か月で12個のロボを作成し、残業時間削減を実現

国際航空貨物の代理店であり、輸出の貨物を海外に送る手配を行っている株式会社近鉄エクスプレス京浜輸出営業所（以下同営業所）。同営業所では、月間4,000件あるシステムへの入力作業をほとんど手作業で行っていた。その結果、担当者の負担が増えてしまっていたためRPAを導入。わずか2ヶ月で12個のロボを作成し、1業務あたりの作業時間/待機時間を一日当たり30分～1時間の削減。さらに効率化を進めるべく、今後はロボを扱える人員増加を目標にしている。

BEFORE

- 月間4,000件のシステムへの入力作業が社員の負担となっていた
- 単純作業の処理により、本来の業務である顧客対応に専念できない状況であった

AFTER

- 入力作業の一部の600件をRPA化
- 1業務あたりの作業時間/待機時間を一日当たり30分～1時間の削減
- 顧客対応などの生産性の高い業務に専念できるようになった

手作業での月間 4,000 件のシステムへの入力作業

単純作業の処理により、カスタマーサービスの担当者が顧客対応に専念できない



顧客対応を優先するため、入力業務は業務時間外
↳ 担当者の残業時間が増えてしまい
作業の負担軽減は喫緊の課題 !!

導入後2か月で12個のロボを作成 従業員の負担減

顧客対応をしている間にロボが自動で入力



- ✓ 月間 4,000 件のうち 600 件の入力業務を自動化
- ✓ ひとりあたり約 1 時間 / 日の残業時間を削減

ロボ作成がもっとも容易だった RoboTANGO を導入

RoboTANGO 導入の決め手



今後の展望

今後さらにロボを増やし
効率化を進めるのが目標

- ロボを作成できる人員を増やす
- 新たな RPA 活用の幅を広げる



株式会社近鉄エクスプレス

【設立】1970年1月
【所在地】東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟24階
【代表】代表取締役社長執行役員 鳥居 伸年
【WEB】 <https://www.kwe.com/jp/>

課題

月間4,000件もの
入力業務が負担になっていた日々発生する入力業務で残業時間が増加し、
担当者の負担軽減が喫緊の課題となっていた

株式会社近鉄エクスプレス京浜輸出営業所（以下同営業所）は、国際航空貨物の代理店で、主に輸出の貨物を海外に送る手配を行っている。

日々、海外へ輸出する貨物に関する情報が顧客から寄せられていた。それに伴い、システムへの入力作業が発生するが、営業時間中は顧客対応を優先するため、入力業務は業務時間外に行っていた。その結果、担当者の残業時間が増え、負担軽減は喫緊の課題であった。

月間4,000件ものシステムへの入力作業を手作業で行っており、ミスの心配や本来の業務に専念できないという点も課題となっていた。

「カスタマーサービスの担当者が単純作業から離れられないケースが多く、本来の業務である顧客対応に集中できないことも大きな課題となっていました。」
（小倉氏）

効果

導入後2か月で12個のロボを作成し、従業員の負担減

1業務あたりの作業時間/待機時間を
一日当たり30分～1時間の削減

RoboTANGOを導入し、トライアルの段階からロボの作成を始め、2ヶ月で12個のロボを完成させた。具体的には、顧客から寄せられる情報を社内システムに入力する業務、月次レポートのメール送信、取得したデータの加工などをロボ化。

月間4,000件のうち、600件の入力業務、単純作業をロボ化した結果、毎日ではないものの、日に換算すると30分～1時間程度の残業時間を削減し、顧客対応に集中できるようになった。それに伴い、従業員の負担軽減を実現した。

「従来は業務時間外に行っていた入力業務が顧客対応をしている間にロボが自動でやってくれるため、ミスの心配なく本来の業務に集中できるようになったのはとても大きいです。」

また、体感的に1日の決まった時間に単純作業で時間が取られることがなくなったのはとても大きな成果だと感じています。」
（小倉氏）

経緯

複数ツールと比較検討した結果、RoboTANGOを選択

ロボ作成がもっとも容易だった
RoboTANGOを導入

同営業所では、入力業務の効率化による残業時間削減を実現すべく解決策を模索するなか、他部署で導入されていたRoboTANGOの存在を知り、RPA導入を前提に複数のツールでトライアルを行った。

その後、トライアルを経てロボ作成の容易さや録画機能の利便性、サポートの充実さなどからRoboTANGOの導入を決定した。

「現在行っている業務でRPAを取り入れると考えた際、複数のツールで比較検討したところ、RoboTANGOがもっとも容易に操作できると感じたのが導入を決めた1つの理由です。」

また、RoboTANGOの録画機能が使いやすく、複雑なシナリオを作成する際も、録画機能を活用して大まかにシナリオを作成すれば後は微調整で済む点も導入に至った理由となっています。」
（小倉氏）

展望

今後さらにロボを増やし
効率化を進めるのが目標ロボを作成できる人員を増やし、
効率化をスピードアップさせていく

現状、ロボを作成できる人員が2名しかいないため、スタートアップのサポートを活用しながら、人員を増やしていくのが目標である。

決まった時間帯に同じ処理を行うロボや一定条件を満たした際に指示した処理を行うロボなどアイデア段階のロボを作成していき、今以上に業務効率化、生産性の向上を果たしていくことを計画している。

「現在は2名体制でロボを作成していますが、まずは社内でRPAを扱うことができる人員の増加をしていきたいです。」

RPAを扱える社員が増えれば、スピードアップして業務効率化を進めていくことができます。また、ロボを作れる人が増えればさらに違ったアイデアも出てきて、新たなRPA活用の幅も広がるでしょう。

また、人事異動があった際に、現状のままだと新しいロボの作成が止まってしまうため、できるだけ早い段階で人員を増やしていきたいですね。」
（小倉氏）

RPAとAIOOCRで手書き書類や電子カルテの処理業務を効率化し、約1,800時間/年の作業時間削減を実現

首都圏を中心に17の在宅診療・外来診療のクリニックを展開する医療法人社団平郁会様（以下同会）。同会では他製品のRPAを活用していたものの、ロボの構築・運用は外部に委託していました。しかし保守契約を結んでいた委託先がサービスをクローズすることになり自社で扱えるRPAを求め、RoboTANGOを導入。さらに電子カルテの処理業務の効率化を目指しAIOOCR「DX Suite」も合わせて導入し、電子カルテ業務のデジタル化を推進。手作業の多くを自動化させ年間で約1,800時間の作業時間削減により大幅な効率化を実現しました。

BEFORE

- ロボのメンテナンスの度に外注先に依頼をしなければならなかった
- ロボ作成・保守を依頼していた外注先が保守サービスをクローズすることになった
- 自分たちで扱うには操作が難しかった

AFTER

- 操作が簡単でロボの内製化が可能になった
- AIOOCRによりカスタマーサポート業務の効率化が実現した
- 年間1,800時間の作業時間が削減された

RPAのロボ作成～保守を委託していたが委託先が保守サービスを終了してしまう



電子カルテの処理や手書き書類の処理業務で年間1,800時間削減

こんな業務を自動化

- 17クリニック分の検査データを電子カルテにアップロード**
手作業で1日8回、365日作業しており、20時間/月かかっていたがゼロにまで削減。
- 全患者の処方情報を抽出（分析に使用）**
3か月に1回7,000件の処理を手作業で行い、175時間かかっていたが、RPAによりゼロにまで作業時間を削減。
- 請求先の情報を電子カルテのサマリー画面に入力する作業**
1日15枚の手書き書類の処理を毎営業日実施し、25時間/月かかっていたがAI-OCRとRPAを活用し、ゼロにまで削減。
- 電子カルテに職員のユーザー登録作業**
20人/月程度の職員情報を電子カルテに登録する作業を自動化し10時間/月の作業時間がゼロに削減。
- 入金情報と電子カルテの収納情報の突合・消込作業**
手作業で行うと36時間かかるファイルの突合から消込作業をRPAで自動化し作業工数を削減。

社内展開の工夫

RPA化を進める前に業務のオペレーションを整える

- ✓ 作業に無駄がないか
- ✓ フォーマットの見直し
- ✓ メンテナンスが少なく済むように調整

今後も医療DXを推進

新たなソリューションやトレンドを取り入れてDX化を強化していく



医療法人社団平郁会様

- 【設立】平成14年2月
- 【所在地】東京都中央区東日本橋一丁目1番7号2階
- 【代表】理事長 大田 和枝
- 【WEB】 <https://www.heiikukai.com/>

課題

外部にRPAの作成～保守を委託していたが手間になっていた

RPAの保守委託先がサービスを終了したため
操作が簡単なツールへの変更が急務だった

医療法人社団平郁会（以下同会）は、東京や神奈川、千葉で多くの患者様の療養生活の支援を行いつつ、訪問医療の体制が整っていない地域での訪問医療普及にも取り組んでいる。

同会では以前よりRoboTANGOとは異なるRPAを活用していたものの、ロボの作成や保守は外部に委託していました。しかし、システムアップデートの度に変更される仕様に合わせて、都度シナリオの修正を委託先に依頼する必要があり、やり取りに多くの手間が生じていた。

しかも電子カルテの処理業務には手作業が必要なものも多く、効率化を進めたいもの思ったようには進んでいないのが現状であった。

その後、保守を依頼していた委託先がサービスを終了するというところで、自分たちで運用保守を行うことも検討したが、従来使用していたRPAが複雑で内製化が難しかったため、より操作が簡単で扱いやすいRPAの導入が急務であった。

「提携先がRPAの保守から外れるとなって、急遽自分たちでどうにかしなきゃいけない。でもRPAはもうすでに必要不可欠になってるから止めることはできないとなって、自分たちでも使えるRPAを一から探し始めました」（南氏）

効果

AIOCRとRPA活用で約1,800時間/年の工数を削減し、
医療DXの推進を実現

以前のRPAでは2つの業務を自動化させていたが、RoboTANGO導入をきっかけにロボ作成を始めたこともあり、現在では12個のロボが稼働し、月間150時間以上、年にして1,800時間もの作業時間削減を実現。

その多くは電子カルテ周辺の業務で、同時に導入したAIOCRも活用しつつ具体的には次のような業務の自動化により効率化を実現した。

(1)検査データを電子カルテにアップロード

血液検査の検査を外部企業に委託していて、採血した検査データが検査を行う企業専用のシステムに情報がアップロードされるため、それをダウンロードし弊会の電子カルテにアップロードする作業を手作業で1日8回365日行っていた。

< RPAの導入後 >

すべてを自動化し、1回5分（10クリニック分）×1日8回×30日＝20時間/月の作業時間を削減した。現在は無人で運用しており、エラー等で止まったら随時メンテナンスをしているだけで負担が軽減された。

(2)全患者の処方情報を抽出（分析に使用）

患者様への無駄な薬剤処方を減らすために、処方状況の分析を3カ月に1回行っている。手作業で行くと1人分当たり90秒かかり、7,000件もの処理を行う必要がある。

< RPAの導入後 >

電子カルテから全患者のIDと名前をダウンロードし、各患者のデータにアクセスし、現在処方している薬剤の情報をExcelにコピー＆ペーストする作業をすべて自動化し、1回175時間の削減につながった。その後の分析の時間に注力できるようになった。

経緯

操作が簡単でありながら複雑な
作業も自動化可能な点が決め手3つのRPAで検討し、サポートが手厚く安心
して運用できると思えたRoboTANGOを導入

RPA導入の際に、元々使っていたRPAとRoboTANGO、そしてもう1社の3つのツールで検討を進めた結果、RPA初心者でも比較的簡単に操作ができること、簡単でありながらも複雑な業務をこなせるロボも作成できること、1ライセンスで複数台のPCで運用ができることなどを理由にRoboTANGOの導入を決定した。

また、カスタマーサポートの効率化も同時に検討するなかで、OCRが必要となりRoboTANGOとシナジーが取れるところもあり、AI-OCR「DX Suite」も導入した。

そして、南氏は導入を決めたもう一つの決め手としてサポート体制が充実していた点も挙げている。

「営業担当の方が親身になってサポートしてくれて説明がわかりやすく、この方に任せれば安心して導入できるなと思ったのが大きな決め手となりました。」

RPAに対する知識が何もなく1から学ぶところから始められるところがいいなと思った時に担当者のかたが手取り足取り教えてくださいだったので、これだったら自分たちでもできるかもと思いました」（南氏）

(3)請求先の情報を電子カルテのサマリー画面に入力する作業

患者や施設の方からの電話対応、請求処理など患者様から届く手書きの請求先情報など手書きの情報を一回メモ帳などに手打ちし、電子カルテのサマリーの箇所に入力していた。1日15枚ほどの処理が発生し、毎営業日処理していた。

< RPAの導入後 >

書類をOCRで読み取り、RPAがCSVをダウンロードし、データを電子カルテに入力するという一連の流れを自動化した。月間25時間かかっていた作業がゼロに削減された。

(4)電子カルテのユーザー登録

運営している17クリニックでは、それぞれのシステムに職員のユーザー情報を登録する必要があり、入社度に全クリニックのシステムに登録を行う繰り返し作業があった。月に20人ほどの職員情報を処理し、作業には30分ほどかかっていた。

< RPAの導入後 >

専用フォームよりユーザー情報を受け取り、特定のスプレッドシートに反映され、自動的にRPAが動き出すようにした。月に10時間の作業工数削減が実現した。

(5)入金情報と電子カルテの収納情報の突合・消込作業

入金情報が外注先から送付されるので、その内容と電子カルテの情報一致しているか突合して消込をする作業。

< RPAの導入後 >

毎月7,000件くらいあり、7割ほどの自動化している。3割は特殊で備考欄に記載があるとスキップする仕組みになっていて特殊な場合は人力で作業している。7割だけでもかなり楽になった。

ご担当者様からのメッセージ

同じ医療業界であれば絶対使いどころはあると思います。IT知識がない方でもセミナーを受けて1から学習すればすぐ使いこなせるので積極的に導入することをおすすめします。それこそ手書きの文字を扱う機会が医療は多いと思うので、OCRとの連携もうまくいくんじゃないでしょうか。医療現場はほかの業種に比べIT化が進んでいない部分も多くありますが、これから先、ITの進歩から逃れてやっていくのは難しいですし、積極的に活用して行った方が良いのではないかなと思います。（南氏）

膨大なデータ移行に係る費用・リソース共に圧縮 将来は医療業界のDX化をRoboTANGOで実現したい

訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所と全部で4つの施設、2拠点でクリニックを運営している医療法人社団創福会では、4,000人強の患者様の約8万件のデータ移行が必要課題であった。ITツール使用の必要性からRPAの導入を検討、RoboTANGOのわかりやすいレクチャーとリーズナブルさから、導入を決めた。導入後は、当初の課題であったデータ移行が順調に進み、費用面・リソース面の両方で抑えられたと感じている。将来的には、社内での理解をより深め、あらゆる部署の業務改善や課題解決に活用していきたいと考えている。

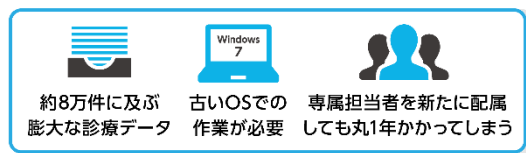
BEFORE

- 膨大な患者データの移行作業が必須
- 古いOSでの作業が必要
- 担当者を配属しても定着まで時間がかかる

AFTER

- 膨大なデータの移行作業をRPAで自動化
- 新たな人員の確保が不要
- RPAの導入コストがリーズナブルで経費削減

サーバー型電子カルテから
クラウド型システムへの移行が
必須課題に…



医療のDX化

- ☑単純な転記作業をRPAで自動化
- ☑新たなリソース確保が不要に
- ☑月額5万円とリーズナブル

費用・人的リソースを抑え、さらに医療のDX化への第一歩に!



医療法人社団 創福会 Fukuro Clinic TODOROKI

ふくろうクリニック等々力

医療法人社団 創福会

【設立】2013年4月
【所在地】東京都世田谷区等々力3丁目5番2号
ヒューリック等々力ビル3階
【代表】理事長・院長・理学博士 山口 潔
【WEB】<https://www.296296.jp/>

課題

旧電子カルテ→クラウド型へ
データ移行が必須約8万件にも及ぶ膨大な患者データの移行のため
ITツールの使用を検討

医療法人社団 創福会は2拠点でクリニックを運営している医療法人である。通院が難しい方を対象とした訪問診療を主に、一般外来も行っており、法人全体では訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所と、全部で4つの施設を運営している。

同院の旧電子カルテがサーバー型でWindows7対応だったため、クラウド型の電子カルテへの移行が必須課題となっていた。

4,000人強の患者様のデータ移行（一人当たり20件程度の診療録、4,000人×20件＝8万件と膨大な量）が必要だった。

とても人の手では間に合わない作業であり、ITツール使用の必要性を感じていた。

また、担当者が退職し、知見のある人がいなくなったらトラブルが発生するのではないかという懸念が以前からあったという。

そのような背景から、医療のDX化を目指そうと展示会に足を運んでいたところ、RoboTANGOに出会った。

効果

1日平均10人分の
データ移行が可能に操作が分かりやすく
データ移行作業が日々順調に進んでいる

旧電子カルテがサーバー型のため、システムが入っている端末でRPAを動かす必要があり、対象のPC1台で稼働させている。

現在は基本的には平日の日中帯に院内で動かし、平均で1日10人分程度のデータ移行ができています。

この業務専属の担当者を配置しても1年単位くらいで作業してやっと完了する程度のボリュームなので、費用面・リソース面の両方で抑えられたという実感がある。

また、操作のわかりやすさで、担当者も助かっているという。

「RoboTANGOは操作がわかりにくいということがほとんどないですし、どこに何があるのかも非常にわかりやすく、助かっています。私ともう一人の職員が運用に携わっているのですが、ロボットに関するリテラシーは二人とも人並み程度。しかし、RoboTANGOは人並み程度のリテラシーでも理解できる仕組みで、使いやすいと感じています。」（黒谷氏）

経緯

わかりやすいレクチャー、
リーズナブルさも決め手に充実したサポート体制が手助けに
月額費用も抑えられた

以前より、自社で活用できるツールがないか情報収集し、1年に1～2回ほど展示会に行っており、今回も電子カルテの移行業務で役立つツールはないか情報収集するために参加していた。

スターティアレイズや派遣スタッフの雇用なども検討し、色々な選択肢がある中で最終的にRPAの導入を決めた。

「無料トライアルの際にスターティアレイズのわかりやすいレクチャーと一緒にシナリオ作成をしたことや、新たに人を雇うより大幅に月額費用を抑えられて、比較的リーズナブルなところが決め手になりました。」（黒谷氏）

導入前から今に至るまで、充実したサポート体制に助けられ、トライアル期間も営業担当の方からの具体的なレクチャーがあったことが、非常に有意義だった。

展望

あらゆる部署の
業務改善や課題解決に活用RPA活用を通して業務を見える化
効率化・簡略化によってさらに深い業務に時間を

RPAを活用するうえで業務の洗い出しをすると、何が無駄かを考えることになり、業務の見える化ができる。

そうすると、社員それぞれの業務内容や残業の偏りなどの発見ができ、課題解決につなげることも可能だ。

ただ現在、医療業界ではRPAに対する理解が得られないことも多く、ツールについて継続して説得していく必要がある。

今後の希望として、レコーディング機能ですべて完結できるようなかたちまで落とし込めたら、より簡易的な操作で済むようになり、誰もが扱えるようになると考えている。

また、汎用性のあるシナリオがテンプレート化されていけば、もっと業務の効率化が進み、システムを教える側も教えられる側も、レクチャーの負担がかなり軽減されるのではないかと。

今後の医療のDX化を促進するためにも、RoboTANGOのさらなる進化に期待している。

RPA導入で煩雑な作業の自動化により月間100時間以上の業務工数を削減。やりたい仕事への時間創出を実現

主に旅行業を営む株式会社日本旅行（以下同社）。同社の関西企画・仕入センターでは、部署内で単純作業の多くを手作業で行っており、業務が逼迫していたため効率化していきたくかった。今自分たちでできることから効率化しようとしたが、個人の工夫・業務の棚卸だけでは効果が薄いと感じ、RPAの導入を決定した。当初は本社で使用していたRPA導入を検討したものの、専門的な知識が必要なため、引継ぎをしたものの使いこなせず活用されなくなってしまった経緯を踏まえ、複数の候補からもっとも安価で簡単に使えることからRoboTANGOを選定。業務効率化に対する社員の意識変化にもつながり、月間で104時間の短縮を実現し、やりたい仕事への時間を生み出した。

BEFORE

- 単純作業の多くを手作業で行っており、業務が逼迫していた
- 半期に1回、3,000~4,000件ほどの単純作業の処理が発生していた
- 予約状況の通知など、お客様に関わる重要な作業を手で行っており、担当者の精神的負担につながっていた

AFTER

- 単純作業が自動化され104時間/月の作業工数削減につながった
- 今まで商品開発において膨大な手作業が懸念され実現していなかったが、RPAにより可能になった
- お客様に関わる重要な業務がRPAにより自動化され正確に処理され、漏れ・ミス防止につながり、担当者の精神的負担が軽減された

商品の登録・削除などの手作業が多く業務が逼迫していた



今できることから、業務改善・業務効率化を推進

BUT 個人の工夫・棚卸レベルでは効果が薄いと感じ、RPA導入を決意

単純作業の自動化により、104時間/月を削減

こんな業務を自動化

顧客リストの抽出・加工・共有
手作業で30分かっていたが2分に短縮
10時間/月の削減に成功

商品の売り止め作業
約2営業日かかっていた作業がなくなり
他の業務にリソースを割くことが可能に

商品の販売登録作業
3,000~4,000件を手作業で行っていたが
自動化し、75時間の削減を実現

費用対効果の検証を実施

RPAを使い続けられるように、社内報告用に効果を数値化

ロゴ開始時間/終了時間を
スプレッドシートに記入する
RPAロボットを作成

- ✓ 今まで商品化できなかったものが可能に
- ✓ 担当者の精神的な負担軽減につながった
- ✓ 業務品質の向上が実現した
- ✓ ヒューマンエラーが削減された



株式会社日本旅行

- 【設立】 昭和24年1月28日
- 【所在地】 東京都中央区日本橋1-19-1
- 【代表】 代表取締役社長兼執行役員 小谷野 悦光
- 【WEB】 <https://www.nta.co.jp/>

課題

商品の登録・削除などの手作業が多く業務が逼迫していた

単純作業ではあるものの、ミスが許されない業務が多く担当者の負担が増大していた

株式会社日本旅行（以下同社）は、旅行業をメインに行う企業であり、今回、RPA導入を行った部署、関西企画仕入れセンターは、そのなかでも国内個人旅行商品のリアルのパンフレットの作成やWeb商品の企画・作成を行っている。

同社では、基幹システムでの作業や基幹システムから抽出したデータの分析・加工業務での手作業が多く、会社として、業務改善・効率化を推進していく風潮はあり、ExcelのマクロやAccessを使って、今自分たちでできることから効率化していこうとしていた。

しかし個人の工夫・業務の棚卸レベルでは効果が薄いと感じ抜本的な改善が必要であると感じていた。また、単純作業ではあるものの、ミスが許されない業務も多く、担当者の負担増大が大きな課題となっていた。

「当初は社内でExcelのマクロやAccessを使って、今自分たちでできることから効率化していこうとしていたものの、個人の工夫・業務の棚卸レベルでは効果が薄いと感じ抜本的な改善が必要だと感じていました」（出間氏）

効果

単純作業の自動化により月間で104時間の短縮を実現！
お客様に関わる重要業務もRPA活用でミス・漏れの防止につながった

導入前は特に基幹システム周りで煩雑な手作業が多かったが、RPA導入で業務を自動化し、月間で104時間の作業時間削減をしたと同時に担当者の作業負担や精神的負担が軽減した。

また、お客様に関わるミスが許されない重要な業務もRPAが正確に作業してくれるため、ミス・漏れ防止につながった。

(1)顧客リストの抽出、加工、共有

お客様の予約枠を確保するために、予約情報を各施設に通知する作業を手で行っていた。お客様に関わることでミスは許されない業務である。週3回1人の担当者が対応していた。作業量が多いうえにミスをしてはいけないという精神的な負担がかかっていた。

< RPAの導入後 >

基幹システムからリストを抽出する作業や、CSV・Excelデータの加工、プロジェクト管理ツールに投稿し通知する流れを自動化した。手作業で30分かかっていたが2分に短縮することができ、10時間/月ほどの削減につながった。

(2)商品の売り止め作業

半期に1回、商品（旅行企画）の売り切れ・期間終了などに伴って売り止め（販売停止）の依頼があった際に、1つ1つの停止処理をしなければならぬ作業が発生していて、丸1日かけても完了できないほど煩雑で大変な作業であった。

< RPAの導入後 >

RPAで対応できるように基幹システムの宿泊カレンダーと同じ形式のExcelを作成し、Excelから基幹システムへコピー＆ペーストを行う作業を自動化。約2営業日かかっていた作業がなくなり、他の業務にリソースを割くことができた。

経緯

複数候補のなかからトライアルを経て導入を決定

操作性の良さやサポート体制の充実さがRoboTANGO導入の決め手

すでに本社でRPAを扱っていた出間氏は、関西企画仕入れセンターでもRPAの活用を考えたものの、扱っていたRPAは専門的知識が必要であったため、普及は難しいと考え、単価や操作性で納得できるものを探していた。

そのなかで、あるメルマガでRoboTANGOの存在を知り、「安価」「簡単な操作」という点に興味を持ち、無料トライアルを実施。実際に扱った結果、以下の理由から導入を決定した。

- ・ライセンス単価が月額5万円と安価なこと
- ・最低利用期間が1か月であること
- ・操作が簡単なこと
- ・サポート体制がしっかりしていたこと

「実際に使ってみて導入を決めた理由は大きく3つありました。最低利用期間が1か月、月額5万円と安価、トライアルで口ボをつくってみて、初心者でもレクチャーを受けていくなかで扱えそうだった点です。スクリプトが多いことや、画像検索待機機能の精度が高く汎用性があったことがよかったです」（出間氏）

(3)商品の販売登録作業

半期に1回、商品の発売準備ができ次第、基幹システムで販売化し、お客様が予約できる状態にする作業。50商品、3,000~4,000件ほどのプランがあり、プランを1つずつ開いてプルダウンの項目の「販売化」を選択するという膨大な単純作業を手作業で行っていた。

< RPAの導入後 >

人の手で行っていた作業をRPAでほぼ自動化を実現し、75時間の作業時間削減につながった。

★費用対効果の検証

ロボの稼働時間をスプレッドシートに集計する作業を自動化した。具体的には、各ロボの名称と実行開始時間・終了時間をスプレッドシートに入力するロボをそれぞれに挿入し、どれだけ作業が削減されているのか数値化されるようにした。

RPAを継続して活用したかったため、社内の報告資料に活用することができ、RPAの効果を示すことができた。

膨大な手作業が発生してしまうため商品化につながらなかったことがあったが、煩雑な業務はRPAに任せることができるようになったので、商品開発が可能になった。

「単純に業務効率化が実現したのも大きな効果ですが、クーポン情報の通知は取りこぼしがあるとお客様が宿泊施設に行った際に、そんな予約はありませんといったことになってしまいます。」

人の手で行えば必ずミスは出てしまうものなので、自動化によってそれがなくなり、担当者の精神的な負担軽減と同時に業務品質の向上が実現したのもRPA導入の効果です」（出間氏）



ご担当者様からのメッセージ



今までやりたいと思っても、忙しくてできずに諦めていた業務がたくさんあったと思います。手作業で行う業務はすごい達成感があって、やりきったという気持ちになります。そういった意識を変えて、RPAに代わりにやってもらおうという風に切り替えることで、時間を有効活用できるようになり、自分たちが本当にやりたいと思っていた仕事に取り組みできるようになります。（出間氏）

RPAを導入してすぐは慣れるまで抵抗感があるかもしれませんが、これまで時間がかかったり煩雑だった業務が自動化され人の手から離れば、その効果を実感できると思います。まずは難しいことと思わずに、取り組んでみることから始められることをおすすめします。（小西氏）

手厚いサポートが多くロボ作成の手助けに RPA活用により従業員の心にゆとりを生み出した

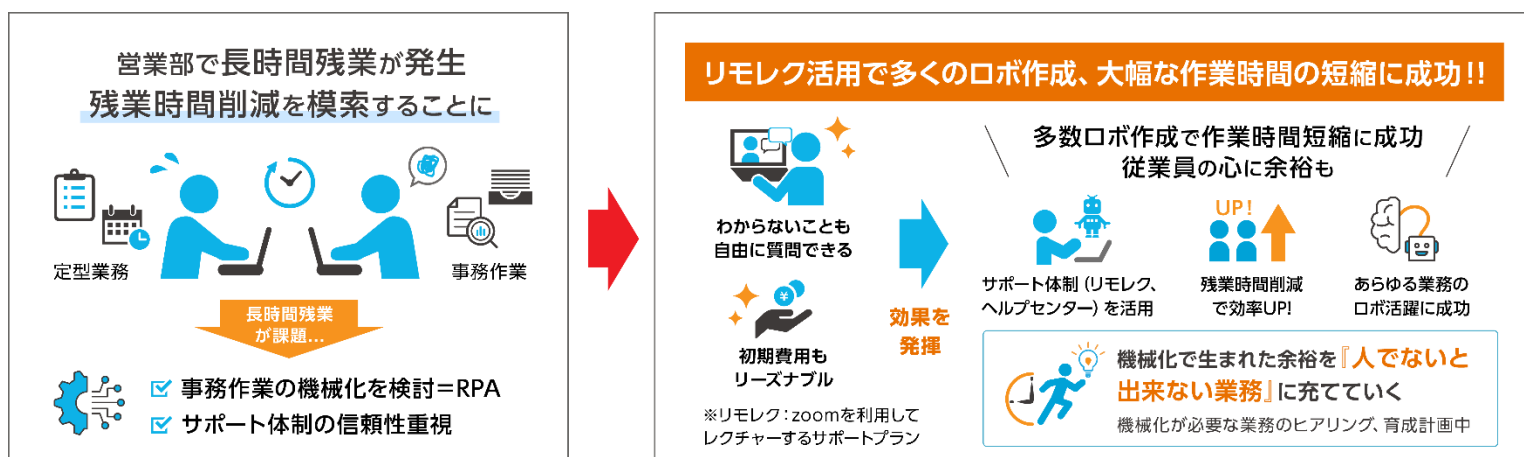
一般的な印刷物はもちろん、クリアファイルやステッカーなどの特殊な加工技術を用いた環境にやさしい特殊印刷・高付加価値印刷を得意としている白山印刷株式会社（以下同社）では、主に営業部での残業時間が多く、課題となっていた。同社は、残業時間を削減するためにRPAの導入を検討、RoboTANGOの手厚いサポートに魅力を感じ、導入を決めた。導入後は、当初の課題であった残業時間削減はもちろんのこと、従業員の心にゆとりが生まれる効果もあった。将来的には、機械化できる業務で生まれた余力を人でないと出来ない業務に充て、さらに社内にRPAを浸透させていきたいと考えている。

BEFORE

- 営業部での長時間残業が課題
- 事務作業の機械化ツールとしてRPA導入を検討
- 他社RPAはサポート体制に不安あり

AFTER

- 手厚いサポートが多くロボ作成の手助けに
- 残業時間が削減され、従業員の心にゆとりが生まれた
- 今後は機械化できる業務で生まれた余力を人でないと出来ない業務に充てたい



HAXAN[®]

白山印刷株式会社

白山印刷株式会社

【設立】 1969年6月
 【所在地】 東京都台東区台東1丁目27番10号
 第2成瀬秋葉原ビル3階
 【代表】 (会長) 岡本 優子 (社長) 小林 剛
 【WEB】 <https://hakusan-p.co.jp/>

課題

営業部で長時間残業が発生
残業時間の削減を模索残業時間削減のために
RPAによる事務作業の機械化を検討

白山印刷株式会社（以下同社）は、一般的な印刷物はもちろん、クリアファイルやステッカーなどの特殊な加工技術を用いた環境にやさしい特殊印刷・高負荷価値印刷を得意としている印刷会社である。

同社では、主に営業部での残業時間が非常に長くなっており、課題となっていた。

営業部では定型業務も多くあったことから、事務作業の機械化できる部分を機械化し、残業時間を削減しようと考えたという。

そこで、RPA導入の検討が始まった。

「2、3年前に顧問の中小企業診断士の方から、RPAの存在は聞いていたので、事務作業の機械化ツールを検討し始めたときから、もうRPA一択でした」（岡本氏）

効果

作業時間の短縮に成功
従業員の心に余裕も多くのロボ作成に成功
様々な業務にロボを活用し、作業を機械化

同社では、RPAを活用して、同社システムの印刷管理ツールをさらに実用的に稼働させている。

印刷管理ツールからは、多様な情報を抽出できるが、そのままでは見にくく、使いこなせない従業員が多かった。現在は、印刷管理ツールから抽出した情報をRoboTANGOでExcelに見やすく加工して活用している。

また、同社では15個とかなり多くのロボ作成に成功した。発送伝票作成用ロボは、ほぼ毎日、売上管理用ロボは、締めめのタイミングで毎回使用している。

当初の課題であった残業時間削減にも効果が表れている。中には、今まで2、3時間を要していた作業が10分程度に短縮できた例もある。作業時間短縮により、従業員の心に余裕も生まれたという。

「機械で処理したほうが正確ですし、手間が省けたことで、従業員が仕事に集中しやすくなったと感じています。また、従業員の心に余裕ができて、気持ちよく仕事ができているようです」（山路氏）

経緯

サポート体制が決め手に
ロボ作成にリモレクも活用他社製品はアフターケアが不安
ヘルプセンター&リモレクが手助けに

同社は、RPA導入にあたって複数のツールを比較した。ただし、他社製品はツール販売とサポートが別会社だったりし、アフターケアに不安があった。

一方で、RoboTANGOのサポート体制は信頼でき、初期費用もリーズナブルだったため、導入を決意したという。

同社では、ヘルプセンター内の「よくある質問」やリモレク（※）を活用して、ロボを作成していった。同社はリモレクを導入した初の企業だが、使い勝手の良さに満足しているとのことだ。特に、言葉で伝わりにくい不明点やエラーをzoomに画面を映して質問することができ便利だという。

「リモレクは、自由に質問できたり、エラーの解消を手伝っていただけたりするので、あって良かったなと感じています」（山路氏）

※リモレクという、zoomを利用してRoboTANGOの機能をレクチャーするサポートプラン

展望

機械化で生まれた余裕を
人でないと出来ない業務に充てる機械化が必要な業務のヒアリング実施中
ロボを扱える従業員の育成計画も

同社では、まだまだ機械化できそうな業務が多く残っていると感じている。現在は、他部署でも業務を洗い出し、機械化が必要な業務のヒアリングを実施している。

また、対象となる業務を明確にするためにも、他社のRPA活用事例にも興味を持っているという。

同社では、機械化できる業務をロボに任せることで余力が生まれたら、その余力を人でないと出来ない業務に充てていきたいと考えている。

特に、営業の仕事は機械化できないものが多いため、他業務を機械化した余力で、営業担当者をサポートできるのが理想だ。営業の負担が軽くなっていけば、さらにRoboTANGOの魅力が社内に認知されていくと考えている。

また、同社では現在3名の担当者のもとRPA化を推進しているが、将来的には、ロボのメンテナンスや軽度のエラーに対応できる従業員を育成していく計画も立てている。

新事業での事務作業によって増加する残業時間を RoboTANGOの導入で大幅削減、効率化を目指す

主にゲームセンターの店舗運営およびゲームマシンのレンタル設置を行っている株式会社サードプラネット（以下同社）。同社では、新たに始めたゲームマシンのレンタル設置事業において、事務作業の煩雑化により残業時間の増加という課題が発生。また、景品の受発注といったルーティン作業も多く、効率化の道を模索している状態であった。そこで、残業時間の削減、業務効率化を目的にRPAの導入を決め、事務作業で多く発生するルーティンワークを自動化。残業時間の削減とともに、データ分析のような生産性の高い業務に集中する時間の増加を実現した。

BEFORE

- 膨大な事務作業による残業時間増加
- ルーティンワーク増加による機会損失
- 残業時間過多による従業員の負担増加

AFTER

- ルーティンワークをロボにおまかせ
- 生産性の高い業務に集中する時間の増加
- 従業員の負担・残業時間削減
- 既存業務の課題点の発見

事務作業が多く生産性の高い業務時間が削減 従業員の残業時間が大幅に増加

- 新事業が始まり事務作業が増加
- 毎日発生する受発注作業
- 一部の人間だけ残業



必要な対策 !!

- ✓ 自動化に適した業務の選定
- ✓ 膨大な事務作業による残業時間増加

定型業務を RPA 導入で自動化 残業削減・生産性向上



- ✓ 自動化に適した作業の選定
- ✓ 生産性の高い業務の開始
- ✓ ペーパーレス化にも貢献

プログラミングの知識がなくても ロボの作成が可能

RoboTANGO 導入の決め手



展望

残業時間削減や生産性向上

RPA 活用を他の部署にも拡大
ペーパーレス化・デジタル化の促進
企業全体の効率化を実現

THE 3RD PLANET®

株式会社サードプラネット

【設立】2015年10月19日
【所在地】山口県周南市新地町2484番地の9
【代表】代表取締役社長 児玉 篤
【WEB】<https://3rd-planet.jp/corporate/>

課題

事務作業が多く
慢性化する長時間残業残業時間の削減や生産性の高い業務へ集中する
時間をつくるためにRPA導入を検討

株式会社サードプラネット（以下同社）は、ゲーム&アミューズメント施設「THE 3RD PLANET」「サンゲームス」の店舗運営やパートナー店舗展開を行っている企業である。

同社では新事業として、ゲームマシンのレンタル設置事業を開始したが、毎日発生する景品の受発注作業などの事務作業が多く従業員の残業時間が大幅に増加してしまっただ。

なかでも、毎週発生するデータ抽出作業が負担となり、生産性の高い業務へかける時間が削減されてしまっている点が大きな課題となっている。

「新事業が始まり事務作業が増えてきてる状況の中で、一部の人間だけルーティン業務含めて残業が増えていました。そのため、事務作業の効率化といった部分で、RPAを是非とも導入できないかなと探しておりました。」

経緯

現場レベルでロボの作成が
可能な点が導入の決め手に業務改善、デジタル化のための情報収集で
RPAに出会い、導入を決意

業務改善やデジタル化の情報収集を目的に展示会に行った際、RPAに出会う。複数社のお話を聞いていくなかで、特に興味を持ったRoboTANGOのセミナーに参加し、導入検討を進めていった。

複数社のなかから最終的にRoboTANGOを選定した決め手は、ロボの作成がしやすかった点にある。情報収集段階では、RPAに対して深い理解がなく、金銭面やロボを作成する手間に不安があった。

しかし、説明のなかでプログラミング知識のない現場レベルの社員であってもロボの制作が可能な点、トライアル期間中に実際、社員がサポートを受けながら作成したロボで業務効率化が実現した点などから、トライアルを含め2か月で導入を決定した。

「最初はもう少し社員からの反発もあるかもしれないといった懸念もありましたが、効率化を実現したい現場の社員が積極的にロボの作成に参加し、簡単にできたこと、実際に効果があったことからRoboTANGOの導入を決意しました。」

効果

随時発生する定型業務を
RPA導入で自動化トライアル期間に作成した11個のロボを活用し、
従業員の負担軽減・生産性向上を実現

RPA導入以前は自動化に適した業務の選定もできていなかった。しかし、トライアル段階で自動化に適した業務の選定、ロボの作成方法など充実したサポート体制の基、正式導入までに11個のロボを作成。導入後もすべてのロボが活躍している。

特に同社の課題点でもあったデータの抽出作業をロボを使って自動化したことで、社員は定型業務からの解放が実現。すぐにデータ分析業務を始められるようになった。

その結果、複数業務の自動化が進み、生産性の高い業務へ集中する時間も増加している。

また、RPAの活用範囲を拡大していくなかで、紙やFAX、メールでのやり取りをしている業務が多いことを再認識する。

自動化を進める前にまずはペーパーレスやデジタル化など、業務のやり方そのものの改善が必要な点に気づけたことも間接的ではあるがRPA導入の大きな効果といえる。

展望

RPA活用部署を拡大していき
企業全体での効率化を目指す導入部署の残業時間削減や生産性向上を期待し、
次は別部署へと活用を拡大・効率化を目指す

まだ、導入して間もないもののRPAを導入した部署では、定型業務の負担がなくなり、生産性の高い業務と向き合う時間は確実に増加している。

今後は、まだRPAの導入をしていない部署へも活用の範囲を拡大し、残業時間の削減、デジタル化を進めていきたいと考えている。

また、すでに導入している部署においても、まだまだ自動化を進められる業務は多く、ペーパーレス化、デジタル化といった現状業務の課題解消を進めながら、さらにRPAが活躍できる場を増やしていくことを検討中。

ほかにも、現状は時間がなくて実現していないが、社内での勉強会、セミナーを実施し、まだRPAを活用していない社員を中心に理解を深めてもらい、活用範囲の拡大、ひいては企業全体の業務効率化を進めていきたい。

業務効率化施策の一つとしてRPAを導入 3年間で900時間の作業時間削減を目指し活用拡大を進める

「日本一現場を活性化させる支援部隊」をミッションとして掲げ、主にグループ会社7社の業務効率化支援を行っている、つばさホールディングス株式会社（以下同社）。同社では、グループ会社や自社の手作業が多い業務の効率化を進める対策を検討するなかで、RPAの導入を決意。いくつかの候補の中で、価格の安さやサポートが充実していることから、RoboTANGOを導入した。まずは毎日発生している定型業務やインボイス制度に対応するための準備作業にRPAを活用し、作業時間の削減を目指す。

BEFORE

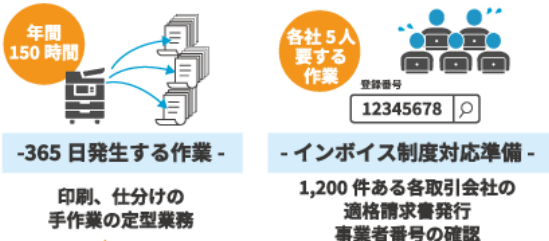
- 各グループ会社で手作業が多く、業務効率化が大きな課題となっていた
- ホールディングスの経理部門でインボイス制度に対応するための準備作業が急務となっていた

AFTER

- 365日30分～1時間ほどかかっていた印刷作業、その仕分けなどの定型業務を自動化し年間150時間の作業時間削減に
- 2023年10月に開始されるインボイス制度の準備作業にRoboTANGOを活用

各グループ会社で膨大な手作業が課題に...

直近の課題として...



課題解決のために

セキュリティ面を意識しながら煩雑になった手作業業務を効率化できるツールを模索

RoboTANGO の決め手

- ✓ランニングコストが安価!
- ✓簡単にロボ作成が可能
- ✓充実したサポート体制

今後の展望

RoboTANGO
×
OCR

ペーパーレス化やOCR導入も視野に入れている。RoboTANGOとの相乗効果でさらなる効率化を目指す。

3年間で900時間の作業時間削減を目指す

グループ会社のバックオフィス業務支援部隊の設立

組織目標達成に向け、RoboTANGOを活用しながら業務効率化を進めていく。



グループ会社へヒアリング



マニュアルの作成



優先順位をつけRPA化を進める



TSUBASA HOLDINGS

つばさホールディングス株式会社

【設立】1973年8月
 【所在地】東京都立川市曙町2-38-5 立川ビジネスセンタービル11F
 【代表】代表取締役社長 猪股 浩行
 【WEB】<https://tsubasa-holdings.co.jp/>

課題

グループ会社各社で手作業が多く社員の負担が大きかった

毎日発生する業務や、新たな制度に対応するための準備で手作業が多く効率化が急務であった

つばさホールディングス株式会社（同社）は、象徴理念として、「日本一現場を活性化させる支援部隊」を掲げ、現在、グループ会社7社の業務効率化支援を行っている企業である。

その中でグループIT推進室という、グループ会社のバックオフィスの支援部隊が新設された。手作業に追われている会社が多く見受けられたため、セキュリティ面を意識しながら業務効率化も進めている。

直近で対応すべき業務として、グループ会社の中の食品加工会社において、365日朝と夕方に発生する印刷・仕分けの定型業務に手作業が非常に多く、課題となっていた。

経理部門においても2023年10月に開始されるインボイス制度の準備として、各グループ会社の取引先確認に5名が重複した手作業を行うことになるため、効率化につながるいい方法がないか模索していた。

効果

365日発生する業務の自動化で年間150時間の作業削減

初めてのRPAでもレクチャーを受け自力でロボット作成が可能に

トライアル時のレクチャーもあり、最初の3週間でロボットを1つ作成し、グループ会社でのルーティンワークに活用を開始。

内容としては、365日発生する印刷・仕分け作業を自動化し、年間150時間の削減が見込めるというロボットを作成した。この業務では、流通BMSから約30個のExcelデータをダウンロードし、全シートを印刷するという作業であるが、毎日手作業で30分～1時間かかっていた。

また、インボイス制度開始に向け、グループ会社7社分の対応準備を進めている。

合計1,200件ほどの取引先様の適格請求書発行事業者番号の登録確認をしなくてはならない。

この業務で発生する検索作業や登録作業を、各社バラバラにやってしまうと5人分の人件費と時間がかかってしまうため、ロボットを作成し自動化することで、グループ会社全体での効率化を図ることができる。

「インボイス制度の対応準備の方はまさにこれから自動化していく作業なため、まだ具体的な効果検証はできていませんが、印刷・仕分け作業は順調にRPAの活用が進んでいます。現状、RoboTANGOの導入によって、人の作業時間は年間150時間ぐらいの削減予定になっております」（永山氏）

経緯

ランニングコストの安さ、サポートの充実性が決め手に

手作業の効率化においてRPAに興味を持ち展示会にて情報収集を行った

同社ではグループ会社のバックオフィス支援部隊としてグループIT推進室が立ち上がり、IT機器や業界に詳しい上長からの紹介で、展示会でいくつかのRPAを選択肢として導入の検討を開始した。

そして、トライアルを経て簡単な操作感やサポートが充実している点、そしてランニングコストの安さに大きな魅力を感じRoboTANGOの導入を決定した。

「ロボットを組み立てる上で待機時間など細かい設定が多く、初めてRPAを操作する場合は、トライアル時のレクチャーがなければロボットの作成は難しいと実感しました。わからなかった時にもメールですぐに対応していただいたのがよかったです。レクチャーはすごくわかりやすかったです。」（永山氏）

「他のRPAも見ましたが、ランニングコストというところで、1番魅力的だということがあったので、ほぼほぼ即決です。」（梅本氏）

展望

組織目標として3年間で900時間削減を掲げRPA活用を拡大

各グループ会社の課題をヒアリングし、優先順位を決めながらRPA活用を推進予定

まずは既にRPAを導入している定型業務やホールディングスのインボイス制度導入準備に関わる業務の効率化を進め、その後は、他のグループ会社からのヒアリングを元に優先順位を決めながら、RPA活用を進めていく予定となっている。

部署の組織目標として3年間で900時間の作業時間削減を目指し、その中のひとつの施策としてRPAの活用拡大を検討している。

「各社の方にグループIT推進室で月1訪問をさせていただいて、今どんなことに困っているかをヒアリングしています。今は効率化したいことがいっぱい溜まっている状態で、その中から私たちに、優先順位をつけさせていただいて、これからやっていきましょうと話します。グループ会社の方々のご意見も数多くお伺いしながら協力し合っています。」（梅本氏）

今後はペーパーレス化を進めるうえでOCR導入も視野に入れ、RPAとの相乗効果でさらなる効率化を目指していく。

RPA導入、5ヶ月で150時間の工数削減を実現。 業務効率化とヒューマンエラー削減を同時に達成！

主にテレマーケティング・アウトソーシングやコールシステムアセット事業、コンタクトセンター業務を行っている鳥取県米子市に本社を構える株式会社マックスサポート（以下同社）。同社では、コンタクトセンター業務での問い合わせ内容報告業務のほとんどが手作業のため、手間がかかるうえにミスが起こりやすいといった課題を抱えていました。そこで、RPAを導入し、21個のロボットを効果的に活用。導入からわずか5ヶ月で月150時間の工数削減を実現。業務効率化とミスの削減を達成しています。

BEFORE

- 問い合わせ内容の報告業務のほとんどが手作業のため、手間がかかりミスも多かった
- 手作業の確認を行うための業務など管理工数の削減が急務であった

AFTER

- 大幅な工数削減を実現
- 報告作業の多くが自動化され、ヒューマンエラーが減った
- コスト管理に対する責任者の意識改革がなされた

煩雑な手作業での報告業務

1日に150～200件の問い合わせ処理

— オペレーター —

— 責任者 —



- ✓ 膨大な問合せ処理
- ✓ 手作業での報告業務

- ✓ オペレーター帰宅後作業内容をチェック

業務効率化とヒューマンエラー削減
同時に達成！

現在 21 個のシナリオを効果的に活用

月 150 時間の
工数削減

ダブルチェックが
不要に

人件費削減

コスト管理に対する
責任者の意識向上

RPAによる
自動作業

- ✓ 報告作業の多くが自動化
- ✓ ヒューマンエラー削減
- ✓ コスト管理に対する意識改革

RoboTANGO 選択の決め手は？

価格が安い・使い勝手が良い
容易にロボット作成が可能

- ▶ すぐにトライアルができる
- ▶ RPAの知識がなくてもシナリオ作成が可能
- ▶ 管理者と実行者の権限に垣根がない

今後の
展望

現在のシナリオを突き詰めて
RoboTANGOの販売代理店へ

RPAの強みや弱みを把握し成功事例を
積み重ね販促材料として活用

今以上に成果を上げてRPAを広めたい

株式会社マックスサポート

【設立】2004年8月16日

【所在地】鳥取県米子市東町234番地
米子開発ビル3F（米子本社）

【代表】代表取締役社長 平井 和治

【WEB】<https://www.max-support.co.jp/>



課題

コンタクトセンター業務での手作業の多さ

問い合わせ内容の報告業務の多くが手作業のため作業工数の削減が急務であった

株式会社マックスサポート（以下同社）は、テレマーケティング・アウトソーシングやコールシステムアセット事業、コンタクトセンター業務などを行っている企業である。

そのなかで、特に課題となっていたのがコンタクトセンターの代理業務で、作業工程の多さとコスト面で改善が急務となっていた。

具体的には、1人当たりで1日に150～200件の電話やメールでの問い合わせに対する処理と報告業務のほぼすべてを手作業で行っていたため、手間がかかるのはもちろん、スピードを優先させるとミスも増え、対応のクオリティが落ちてしまうといった点である。

さらに、作業を行ったオペレーターが帰宅した後に現場の責任者が改めてすべての作業内容をチェックしていたため、残業時間が増加し、コスト面でも大きな課題となっていた。

経緯

価格の安さと使い勝手の良さが導入の決め手

価格が安いうえ、使い勝手が良く容易にロボット作成ができることから導入を決意

同社では、コンタクトセンターの代理業務においてRPAの導入を検討していたが、自社で実際に活用するイメージが湧かず導入には二の足を踏んでいた。

しかし、取引先からの紹介でRoboTANGOを知ると、費用的に自社でも十分、導入が可能なことやすぐにトライアルができることなどから改めて導入の検討を開始。

実際にトライアルを始めてみると、RPAの知識がなく、パソコンに強いわけでもないメンバーでも比較的容易にシナリオの作成ができたことで、導入を決断。紹介を受けてからトライアルを経て、わずか1ヶ月で導入を実現した。

「導入の決め手はコスト面やシナリオ作成のしやすさもありますが、フル機能版のライセンス形態だったので、管理者権限とか実行者権限が関係なく使えるところが大きかったのかなと思っています。」（砂川様）

効果

RoboTANGOの活用で150時間の工数削減を実現

単純に工数削減を実現しただけではなく、無駄な工数削減、ミスの低減を実現

同社では、主にコンタクトセンターでの問い合わせ内容の処理や報告する際の資料作成業務にRoboTANGOを導入している。

作成したシナリオはトライアル時も含め21個。それぞれが効果的に動き、導入初月から業務削減が進み、すぐに月100時間の工数削減を実現。さらに導入から5ヶ月で150時間の工数削減を実現した。

工数削減の効果は、単純に人件費削減だけではなく、オペレーターが帰宅した後にダブルチェックを行う必要がなくなったことや、RPAによる自動化でヒューマンエラーが大幅に低減したこともつながっている。

さらに、RPAの導入は副次的な効果として、責任者の意識向上にも貢献している。

「RPA導入をきっかけに削減の効果を具体的な数値として表現することに意識が向き、責任者がコスト管理に対しこれまで以上に真摯に向き合えるようになりました。これもRPA導入による効果です。」（砂川氏）

展望

今後は販売店として全国展開も視野に活動を開始

現在稼働しているシナリオを突き詰め、成功事例を増やし販売にも力を入れたい

同社では、現在稼働している21個のシナリオをさらに突き詰め、今以上に成果を上げていきたいと改善を繰り返している。

さらに今後の目標としては、RoboTANGOの販売代理店として、インバウンド事業を行う企業やパートナー企業に向けRPAを広めていきたいとしている。

そのためにも、これまで以上にRPAの強みや弱みを把握し、成功事例を積み重ね販促材料として活用したいと検討している。

「弊社の地場は九州ですが、まずは全国にいらっしゃる弊社のパートナー参加店さんに向けてRoboTANGOを案内し、成功事例を積み上げていきます。」（砂川氏）

同社は鳥取・東京・島根・福岡・熊本に支店や営業所があるため、RPA導入を検討している企業は同社への相談をおすすめする。

RPAとAI-OCRツールの併用で作業時間を大幅削減！ 1,000時間分の作業短縮に成功

スターティアグループの障がい者雇用の特例子会社として、各社のバックオフィス業務のBPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）をメインで担当しているスターティアウィル株式会社（以下同社）では、大量のデータをエクセルへ転記したり、手作業でのデータ確認などに膨大な時間がかかることが課題だった。これらの作業時間短縮のために、RPA「RoboTANGO」およびAI-OCRツール「DX Suite」を導入した。RPAとAI-OCRツールを様々な業務へ取り入れたところ、1,000時間の作業削減が実現するなど、大幅な作業時間短縮に成功した。

BEFORE

- 手作業でのデータ入力、データ確認に膨大な時間が必要
- VBAを使用していたが、専門知識が必要で敷居が高いイメージ

AFTER

- 勤怠管理業務では頻繁にRPAを使用し、作業時間が半減
- AI-OCRツールの活用で、紙書類の電子化作業時間が80%短縮
- 情報収集業務では、1,000時間分の作業時間短縮に成功

500名以上の勤怠管理システムを
VBAと手作業で対応していた

クラウド勤怠管理システム



業務圧縮

グループ全体がデジタルシフトに移行、
社会全体のデジタル化の時流に乗る

RPAとAI-OCRツール導入で、大幅な作業時間短縮に成功

マニュアルや手順の
考案にも注力



VBAとRPAの
併用でより正確に



AI-OCRで
書類をデータ化

勤怠管理



RPAで
作業時間半減

紙書類の電子化



AI-OCRで
80%短縮

情報収集



1,000時間
短縮に成功

自動化により
仕事の価値を
上げていく

RoboTANGO
DX Suite

データ自動化
一元管理
マーケティング
校正 他

startia will

スターティアウィル株式会社

【設立】2017年7月3日
【所在地】千葉県千葉市中央区栄町36-10
甲南アセット千葉中央ビル8階
【代表】西田 博
【WEB】<https://www.startiawill.co.jp/>



課題

エクセルへのデータ転記や
手作業のデータ確認が課題勤怠データ確認、紙書類のデータ転記
手作業で作業時間が膨大に

スターティアウィル株式会社（以下同社）は、スターティアグループの障がい者雇用を担っており、グループ各社のバックオフィス部門の業務のBPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）をメインで担当している。

同社には、現在12名のメンバーが在籍している。グループ各社の日々の業務の一部を処理し、各担当者がコア業務に専念できる環境をつくることによって、スターティアグループ全体の業務効率を向上させることを目標にしている。

同社の日常業務では、システム、Webサイト、紙の申込書などの大量のデータをエクセルへ転記したり、そのデータをチェックする作業が多くあった。これらの作業に膨大な時間がかかることが課題のひとつだった。

「スターティアグループは500名以上の従業員がいるので、これまで勤怠管理がかなり大変でした。手作業で勤怠データの不備をチェックし、VBAの抽出データと照らし合わせていました。

また、管理部の書類は、今までは手作業でエクセルにひとつずつ申込書や顧客情報変更届などのデータを入力していました」（齋藤氏、笹野氏）

経緯

複数のツールを併用した
さらなる業務効率化を検討直感的に使用できるRPA
メンテナンスも自分たちで可能

同社は、主にVBAを使用していたが、VBAには専門知識が必要で敷居が高いイメージが強かったという。そこで、直感的に使用できるRPAにも魅力を感じたとのことだ。

同社は、データ入力やチェックの作業時間削減のために、グループ会社であるスターティアレイズが提供するRPAツール「RoboTANGO」を導入するに至った。

「トライアル期間はロボを作成せず、導入してから初めて取り組みましたが、これなら自分たちでもメンテナンスできると直感しました」（齋藤氏）

同社は、VBAとRPAの両方を導入することでの完全な業務自動化も視野に入れていた。

「VBAとRPAを使ってダブルチェックをすることで人の手が完全に空き、その手を使ってまた新しい業務ができると考えました。VBAとRPAはアウトプットが一緒でも、フローは微妙に異なります。それぞれで自動抽出プログラムを実行し、ふたつの答えが合えば、さらに信頼性が高まると考えました」（笹野氏、齋藤氏）

また、同社は大量の紙書類の電子化のために、RPAとあわせてAI-OCRツール「DX Suite」も導入した。

効果

様々な業務へツールを導入
1,000時間分の作業短縮も積極的にRPAとAI-OCRツールを使用
両方のツールを併用した活用も

RPAとAI-OCRツールの導入後、同社では、積極的に様々な業務へ取り入れ、業務時間の短縮に成功した。

最も使用頻度が高いのは、勤怠管理業務で、毎週使用しているという。導入前は手作業でデータ不備をチェックしていたが、現在はVBAとRoboTANGOのデータを照合して業務完了となる。作業時間は丸1日から半日未満に短縮し、ヒューマンエラーも減り、正確性も上がったという。

DX Suite の導入では、紙書類を一括で電子化可能となった。書類の電子化は月900件程度発生することもあり、手作業でエクセルにデータ入力していた時と比較し、約8割の作業量削減に成功したという。

また、電子化後のファイルの名称付け作業にはRPAを活用している。DX Suite から出力したリストの名前をPDFに自動反映するロボットを作成し、DX Suite とRPAを併せて活用している。

多くの作業時間の短縮が図れたのは、URLと記事タイトルをエクセルにまとめていた各業界の情報収集業務へのRPA導入だった。

「RPAで一定期間の情報をサルベージし、自動的に圧縮しています。3万件もの情報のなかから、わずか30分で会社名と記事の見出しを拾ってくれるので、すごく便利です。これで作業時間を約1,000時間短縮できたと思います」（齋藤氏）

展望

今後も活用を進めていき
既存の仕事に付加価値を働く場所を選ばない
業務の生産性向上に寄与

同社では、今後もRPAとAI-OCRツールを積極的に活用していきたいと考えている。

昨今、リモートワークへの取組みからパフォーマンスの維持向上が課題としてあった。RPAやAI-OCRツールは働く場所やワークスタイルを意識することなく、同社の業務にマッチし生産性向上に寄与している。

「これまでの業務をRPAで構築するという付加価値が加わったため、当社の業務に対する信頼度が上がり、業務量も年々増えてきています。グループ会社から切り出した業務はRPAやAI-OCRを活用するシーンが多くあり、蓄積したノウハウを応用して自動化を推進させ、これまで以上に業務の正確性・生産性を追求していく予定です。今後はRPAとAI-OCRツールを使った成功事例・体験事例を社内のみならず社外にも発信して行くつもりです。」（西田氏）



スターティアレイズ株式会社

〒163-0919

東京都新宿区西新宿2丁目3-1 新宿モノリス19F

TEL 03-6316-1488 / FAX 03-6316-1489

<https://www.startiaraise.co.jp>



RPAツール「RoboTANGO」

<https://robotango.biz/>

